

日立アドバンスサーバ
HA8000シリーズ

HITACHI
Inspire the Next

ユーザーズガイド

～導入編～

HA8000/RS440 AL2

HA8000

2012年11月～モデル

マニュアルはよく読み、保管してください。

製品を使用する前に、安全上の指示をよく読み、十分理解してください。
このマニュアルは、いつでも参照できるよう、手近な所に保管してください。

R44BL21100-2

登録商標・商標

Microsoft、Windows、Windows Server、Hyper-V は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

インテル、Intel、Xeon はアメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標または登録商標です。

Linux は Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

Red Hat は米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の商標または登録商標です。

VMware、vCenter、VMware vSphere、ESX、ESXi は米国およびその他の国における VMware, Inc. の登録商標または商標です。

80PLUS は、米国 Ecos Consulting, Inc. の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

そのほか、本マニュアル中の製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。

発行

2012年11月（初版）（廃版）

2013年6月（第2版）

著作権

このマニュアルの内容はすべて著作権によって保護されています。このマニュアルの内容の一部または全部を、無断で転載することは禁じられています。

© Hitachi, Ltd. 2012, 2013. All rights reserved.

お知らせ

重要なお知らせ

- 本書の内容の一部、または全部を無断で転載したり、複製することは固くお断わりします。
- 本書の内容について、改良のため予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤りなど、お気づきのことがありましたら、お買い求め先へご一報くださいますようお願いいたします。
- 本書に準じないで本製品を運用した結果については責任を負いません。
なお、保証と責任については保証書裏面の「保証規定」をお読みください。

システム装置の信頼性について

ご購入いただきましたシステム装置は、一般事務用を意図して設計・製作されています。生命、財産に著しく影響のある高信頼性を要求される用途への使用は意図されていませんし、保証もされていません。このような高信頼性を要求される用途へは使用しないでください。

高信頼性を必要とする場合には別システムが必要です。弊社営業部門にご相談ください。

一般事務用システム装置が不適当な、高信頼性を必要とする用途例

・化学プラント制御 ・医療機器制御 ・緊急連絡制御など

規制・対策などについて

□ 電波障害自主規制について

この装置は、クラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

□ 電源の瞬時電圧低下対策について

本製品は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対して不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。

(詳しくは本文をご参照ください。)

□ 高調波電流規格：JIS C 61000-3-2 適合品

JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性—第 3-2 部：限度値—高調波電流発生限度値（1 相当りの入力電流が 20A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

□ 雑音耐力について

本製品の外来電磁波に対する耐力は、国際電気標準会議規格 IEC61000-4-3「放射無線周波電磁界イミュニティ試験」のレベル 2 に相当する規定に合致していることを確認しております。

なお、レベル 2 とは、対象となる装置に近づけないで使用されている低出力の携帯型トランシーバから受ける程度の電磁環境です。

□ 輸出規制について

本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法の規制ならびに米国の輸出管理規制など外国の輸出関連法規をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。なお、ご不明な場合は、お買い求め先にお問い合わせください。

また、本製品に付属する周辺機器やソフトウェアも同じ扱いとなります。

□ 海外での使用について

本製品は日本国内専用です。国外では使用しないでください。

なお、他国には各々の国で必要となる法律、規格などが定められており、本製品は適合していません。

□ システム装置の廃棄について

事業者が廃棄する場合、廃棄物管理表（マニフェスト）の発行が義務づけられています。詳しくは、各都道府県産業廃棄物協会にお問い合わせください。廃棄物管理表は（社）全国産業廃棄物連合会に用意されています。個人が廃棄する場合、お買い求め先にご相談いただくか、地方自治体の条例または規則にしたがってください。

また、システム装置内の電池を廃棄する場合もお買い求め先にご相談いただくか、地方自治体の条例または規則にしたがってください。

システム装置の廃棄・譲渡時のデータ消去に関するご注意

システム装置を譲渡あるいは廃棄するときには、ハードディスク / SSD の重要なデータ内容を消去する必要があります。

ハードディスク / SSD 内に書き込まれた「データを消去する」という場合、一般に

- データを「ゴミ箱」に捨てる
- 「削除」操作を行う
- 「ゴミ箱を空にする」コマンドを使って消す
- ソフトで初期化（フォーマット）する
- OS を再インストールする

などの作業をしますが、これらのことをしても、ハードディスク / SSD 内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけです。つまり、一見消去されたように見えますが、OS のもとでそれらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけであり、本来のデータは残っているという状態にあります。

したがって、データ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、システム装置のハードディスク / SSD 内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。

ハードディスク / SSD 上の重要なデータの流出を回避するため、システム装置を譲渡あるいは廃棄をする前に、ハードディスク / SSD に記録された全データをお客様の責任において消去することが非常に重要です。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（共に有償）を利用するか、ハードディスク / SSD を金槌や強磁気により物理的・磁氣的に破壊して、データを読みなくすることをお勧めします。

なお、ハードディスク / SSD 上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくシステム装置を譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合がありますため、十分な確認を行う必要があります。

はじめに

このたびは日立のシステム装置をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。このマニュアルは、システム装置の設置と接続や取り扱いの注意など、使用するために必要な事柄について記載しています。

マニュアルの表記

マニュアル内で使用しているマークの意味は次のとおりです。

 警告	これは、死亡または重大な傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
 注意	これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
通知	これは、人身傷害とは関係のない損害を引き起こすおそれのある場合に用います。
 制限	システム装置の故障や障害の発生を防止し、正常に動作させるための事項を示します。
 補足	システム装置を活用するためのアドバイスを示します。

□ システム装置の表記について

このマニュアルでは、システム装置を装置と略して表記することがあります。

また、システム装置を区別する場合には次のモデル名で表記します。

RS440 AL2 モデル

システム装置のモデルを省略して

RS440 xL2 モデル

と表記することもあります。

□ オペレーティングシステム (OS) の略称について

このマニュアルでは、次の OS 名称を省略して表記します。

- Microsoft® Windows Server® 2012 Standard 日本語版
(以下 Windows Server 2012 Standard または Windows Server 2012、Windows)
- Microsoft® Windows Server® 2012 Datacenter 日本語版
(以下 Windows Server 2012 Datacenter または Windows Server 2012、Windows)
- Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard 日本語版
(以下 Windows Server 2008 R2 Standard または Windows Server 2008 R2、Windows)
- Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Enterprise 日本語版
(以下 Windows Server 2008 R2 Enterprise または Windows Server 2008 R2、Windows)
- Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Datacenter 日本語版
(以下 Windows Server 2008 R2 Datacenter または Windows Server 2008 R2、Windows)
- Microsoft® Windows Server® 2008 Standard 日本語版
(以下 Windows Server 2008 Standard または Windows Server 2008、Windows)
- Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise 日本語版
(以下 Windows Server 2008 Enterprise または Windows Server 2008、Windows)
- Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter 日本語版
(以下 Windows Server 2008 Datacenter または Windows Server 2008、Windows)
- Microsoft® Windows Server® 2008 Standard without Hyper-V® 日本語版
(以下 Windows Server 2008 Standard without Hyper-V または
Windows Server 2008 Standard、Windows Server 2008、Windows)
- Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise without Hyper-V® 日本語版
(以下 Windows Server 2008 Enterprise without Hyper-V または
Windows Server 2008 Enterprise、Windows Server 2008、Windows)
- Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter without Hyper-V® 日本語版
(以下 Windows Server 2008 Datacenter without Hyper-V または
Windows Server 2008 Datacenter、Windows Server 2008、Windows)
- Red Hat Enterprise Linux Server 6.4 (64-bit x86_64)
(以下 RHEL6.4 (64-bit x86_64) または RHEL6.4、RHEL6、Linux)
- Red Hat Enterprise Linux Server 6.4 (32-bit x86)
(以下 RHEL6.4 (32-bit x86) または RHEL6.4、RHEL6、Linux)
- Red Hat Enterprise Linux Server 6.2 (64-bit x86_64)
(以下 RHEL6.2 (64-bit x86_64) または RHEL6.2、RHEL6、Linux)
- Red Hat Enterprise Linux Server 6.2 (32-bit x86)
(以下 RHEL6.2 (32-bit x86) または RHEL6.2、RHEL6、Linux)
- Red Hat Enterprise Linux 5.7 (AMD/Intel 64)
(以下 RHEL5.7 (AMD/Intel 64) または RHEL5.7、RHEL5、Linux)
- Red Hat Enterprise Linux 5.7 (x86)
(以下 RHEL5.7 (x86) または RHEL5.7、RHEL5、Linux)
- VMware vSphere® ESXi™ 5.1
(以下 VMware vSphere ESXi 5.1 または VMware vSphere ESXi、VMware)
- VMware vSphere® ESXi™ 5.0
(以下 VMware vSphere ESXi 5.0 または VMware vSphere ESXi、VMware)
- VMware vSphere® ESX® 4.1
(以下 VMware vSphere ESX 4.1 または VMware vSphere ESX、VMware)

次のとおり、省略した「OS 表記」は、「対象 OS」中のすべてまたは一部を表すときに用います。

OS 表記	対象 OS
Windows Server 2012 Standard *1	・ Windows Server 2012 Standard *1
Windows Server 2012 Datacenter *1	・ Windows Server 2012 Datacenter *1
Windows Server 2012 *1	・ Windows Server 2012 Standard *1 ・ Windows Server 2012 Datacenter *1
Windows Server 2008 R2 Standard *1	・ Windows Server 2008 R2 Standard *1
Windows Server 2008 R2 Enterprise *1	・ Windows Server 2008 R2 Enterprise *1
Windows Server 2008 R2 Datacenter *1	・ Windows Server 2008 R2 Datacenter *1
Windows Server 2008 R2 *1	・ Windows Server 2008 R2 Standard *1 ・ Windows Server 2008 R2 Enterprise *1 ・ Windows Server 2008 R2 Datacenter *1
Windows Server 2008 Standard *2	・ Windows Server 2008 Standard *2 ・ Windows Server 2008 Standard without Hyper-V *2
Windows Server 2008 Enterprise *2	・ Windows Server 2008 Enterprise *2 ・ Windows Server 2008 Enterprise without Hyper-V *2
Windows Server 2008 Datacenter *2	・ Windows Server 2008 Datacenter *2 ・ Windows Server 2008 Datacenter without Hyper-V *2
Windows Server 2008 *2	・ Windows Server 2008 Standard *2 ・ Windows Server 2008 Enterprise *2 ・ Windows Server 2008 Datacenter *2 ・ Windows Server 2008 Standard without Hyper-V *2 ・ Windows Server 2008 Enterprise without Hyper-V *2 ・ Windows Server 2008 Datacenter without Hyper-V *2
Windows	・ Windows Server 2012 Standard *1 ・ Windows Server 2012 Datacenter *1 ・ Windows Server 2008 R2 Standard *1 ・ Windows Server 2008 R2 Enterprise *1 ・ Windows Server 2008 R2 Datacenter *1 ・ Windows Server 2008 Standard *2 ・ Windows Server 2008 Enterprise *2 ・ Windows Server 2008 Datacenter *2 ・ Windows Server 2008 Standard without Hyper-V *2 ・ Windows Server 2008 Enterprise without Hyper-V *2 ・ Windows Server 2008 Datacenter without Hyper-V *2
RHEL6.4	・ RHEL6.4 (64-bit x86_64) ・ RHEL6.4 (32-bit x86)
RHEL6.2	・ RHEL6.2 (64-bit x86_64) ・ RHEL6.2 (32-bit x86)
RHEL5.7 RHEL5	・ RHEL5.7 (AMD/Intel 64) ・ RHEL5.7 (x86)
RHEL6	・ RHEL6.4 (64-bit x86_64) ・ RHEL6.4 (32-bit x86) ・ RHEL6.2 (64-bit x86_64) ・ RHEL6.2 (32-bit x86)
Linux	・ RHEL6.4 (64-bit x86_64) ・ RHEL6.4 (32-bit x86) ・ RHEL6.2 (64-bit x86_64) ・ RHEL6.2 (32-bit x86) ・ RHEL5.7 (AMD/Intel 64) ・ RHEL5.7 (x86)
VMware vSphere ESXi 5.1	・ VMware vSphere ESXi 5.1
VMware vSphere ESXi 5.0	・ VMware vSphere ESXi 5.0
VMware vSphere ESXi	・ VMware vSphere ESXi 5.1 ・ VMware vSphere ESXi 5.0

OS 表記	対象 OS
VMware vSphere ESX 4.1 VMware vSphere ESX	・ VMware vSphere ESX 4.1
VMware	・ VMware vSphere ESXi 5.1 ・ VMware vSphere ESXi 5.0 ・ VMware vSphere ESX 4.1

*1 64bit 版のみ提供されます。

*2 「OS 表記」および「対象 OS」において、32bit 版のみを対象とする場合、名称末尾に“32bit 版”を追記します。
また、64bit 版のみを対象とする場合、名称末尾に“64bit 版”を追記します。

また、Windows の Service Pack についても SP と表記します。

安全にお使いいただくために

安全に関する注意事項は、下に示す見出しによって表示されます。これは安全警告記号と「警告」、「注意」および「通知」という見出し語を組み合わせたものです。

	これは、安全警告記号です。人への危害を引き起こす潜在的な危険に注意を喚起するために用います。起こりうる傷害または死を回避するためにこのシンボルのあとに続く安全に関するメッセージにしたがってください。
 警告	これは、死亡または重大な傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
 注意	これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。

通知	これは、人身傷害とは関係のない損害を引き起こすおそれのある場合に用います。
-----------	---------------------------------------



【表記例 1】 感電注意

▲の図記号は注意していただきたいことを示し、▲の中に「感電注意」などの注意事項の絵が描かれています。



【表記例 2】 分解禁止

⊘の図記号は行ってはいけないことを示し、⊘の中に「分解禁止」などの禁止事項の絵が描かれています。

なお、⊘の中に絵がないものは、一般的な禁止事項を示します。



【表記例 3】 電源プラグをコンセントから抜け

●の図記号は行っていただきたいことを示し、●の中に「電源プラグをコンセントから抜け」などの強制事項の絵が描かれています。

なお、❗は一般的に行っていただきたい事項を示します。

安全に関する共通的な注意について

次に述べられている安全上の説明をよく読み、十分理解してください。

- 操作は、このマニュアル内の指示、手順にしたがって行ってください。
- 本製品やマニュアルに表示されている注意事項は必ず守ってください。
- 本製品に搭載または接続するオプションなど、ほかの製品に添付されているマニュアルも参照し、記載されている注意事項を必ず守ってください。

これを怠ると、人身上の傷害やシステムを含む財産の損害を引き起こすおそれがあります。

操作や動作は

マニュアルに記載されている以外の操作や動作は行わないでください。

本製品について何か問題がある場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあと、お買い求め先にご連絡いただくか保守員をお呼びください。

自分自身でもご注意を

本製品やマニュアルに表示されている注意事項は、十分検討されたものです。それでも、予測を超えた事態が起こることが考えられます。操作にあたっては、指示にしたがうだけでなく、常に自分自身でも注意するようにしてください。

一般的な安全上の注意事項

本製品の取り扱いにあたり次の注意事項を常に守ってください。



電源コードの取り扱い

電源コードは付属のものおよびサポートオプションを使用し、次のことに注意して取り扱ってください。取り扱いを誤ると、電源コードの銅線が露出したり、ショートや一部断線で過熱して、感電や火災の原因となります。

- 物を載せない
- 引っ張らない
- 押し付けない
- 折り曲げない
- ねじらない
- 加工しない
- 熱器具のそばで使用しない
- 加熱しない
- 束ねない
- ステップルなどで固定しない
- コードに傷がついた状態で使用しない
- 紫外線や強い可視光線を連続して当てない
- アルカリ、酸、油脂、湿気へ接触させない
- 高温環境で使用しない
- 定格以上で使用しない
- ほかの装置で使用しない
- 電源プラグを持たずにコンセントの抜き差しをしない
- 電源プラグを濡れた手で触らない

なお、電源プラグはすぐに抜けるよう、コンセントの周りには物を置かないでください。



タコ足配線

同じコンセントに多数の電源プラグを接続するタコ足配線はしないでください。コードやコンセントが過熱し、火災の原因となるとともに、電力使用量オーバーでブレーカが落ち、ほかの機器にも影響を及ぼします。



電源プラグの接触不良やトラッキング

電源プラグは次のようにしないと、トラッキングの発生や接触不良で過熱し、火災の原因となります。

- 電源プラグは根元までしっかり差し込んでください。
- 電源プラグはほこりや水滴が付着していないことを確認し、差し込んでください。付着している場合は乾いた布などで拭き取ってから差し込んでください。
- グラグラしないコンセントを使用してください。
- コンセントの工事は、専門知識を持った技術者が行ってください。



電池の取り扱い

電池の交換は保守員が行います。交換は行わないでください。また、次のことに注意してください。取り扱いを誤ると過熱・破裂・発火などが原因となります。

- 充電しない
- ショートしない
- 分解しない
- 加熱しない
- 変形しない
- 焼却しない
- 水に濡らさない



修理・改造・分解

本マニュアルに記載のない限り、自分で修理や改造・分解をしないでください。感電や火災、やけどの原因となります。特に電源ユニット内部は高電圧部が数多くあり、万一さわると危険です。



レーザー光

DVD-RAM ドライブなどレーザーデバイスの内部にはレーザー光を発生する部分があります。分解・改造をしないでください。また、内部をのぞきこんだりしないでください。レーザー光により視力低下や失明のおそれがあります。（レーザー光は目に見えない場合があります。）



梱包用ポリ袋

装置の梱包用エアークラップなどのポリ袋は、小さなお子様の手の届くところに置かないでください。かぶったりすると窒息するおそれがあります。



カバー・ブラケットの取り外し



カバー・ブラケットの取り外しは行わないでください。感電ややけど、または装置の故障の原因となります。



電源コンセントの取り扱い

電源コンセントは、使用する電圧および電源コードに合ったものを使用してください。その他のコンセントを使用すると感電のおそれがあります。

→ 「1.3.3 コンセントについて」 P.7



電源スロットカバーの取り付け

電源ユニットの取り外し時、手や工具を内部に差し入れないでください。また、取り外し後は電源スロットカバーを取り付けてください。

電源スロット内部には導体が露出した部分があり、万一手や工具などで触れると感電や装置の故障の原因となります。



目的以外の使用

踏み台やブックエンドなど、PC サーバとしての用途以外にシステム装置を利用しないでください。壊れたり倒れたりし、けがや故障の原因となります。



信号ケーブル

■ ケーブルは足などをひっかけたり、ひっぱったりしないように配線してください。ひっかけたり、ひっぱったりするとけがや接続機器の故障の原因となります。また、データ消失のおそれがあります。

■ ケーブルの上に重量物を載せないでください。また、熱器具のそばに配線しないでください。ケーブル被覆が破れ、接続機器などの故障の原因となります。



金属など端面への接触

装置の移動、部品の追加などで金属やプラスチックなどの端面に触れる場合は、綿手袋を着用してください。けがをするおそれがあります。綿手袋がない場合は十分注意して触れてください。



装置上に物を置く

システム装置の上には周辺機器や物を置かないでください。周辺機器や物がすべり落ちてけがの原因となります。また、置いた物の荷重によってはシステム装置の故障の原因となります。



ラックキャビネット搭載時の取り扱い

ラックキャビネット搭載時、装置上面の空きエリアを棚または作業空間として使用しないでください。装置上面の空きエリアに重量物を置くと、落下によるけがの原因となります。



眼精疲労

ディスプレイを見る環境は 300 ~ 1000 ルクス明るさにしてください。また、ディスプレイを見続ける作業をするときは1時間に10分から15分程度の休息をとってください。長時間ディスプレイを見続けると目に疲労が蓄積され、視力の低下を招くおそれがあります。

装置の損害を防ぐための注意



装置使用環境の確認

装置の使用環境は「1.2 設置環境」P.4 に示す条件を満足してください。たとえば、温度条件を超える高温状態で使用すると、内部の温度が上昇し装置の故障の原因となります。



使用する電源

使用できる電源は AC100V または AC200V です。それ以外の電圧では使用しないでください。電圧の大きさにしたがって内部が破損したり過熱・劣化して、装置の故障の原因となります。



温度差のある場所への移動

移動する場所間で温度差が大きい場合は、表面や内部に結露することがあります。結露した状態で使用すると装置の故障の原因となります。すぐに電源を入れたりせず、使用する場所で数時間そのまま放置し、室温と装置内温度がほぼ同じに安定してから使用してください。たとえば、5℃の環境から 25℃の環境に持ち込む場合、2時間ほど放置してください。



通気孔

通気孔は内部の温度上昇を防ぐためのものです。物を置いたり立てかけたりして通気孔をふさがないでください。内部の温度が上昇し、発煙や故障の原因となります。また、通気孔は常にほこりが付着しないよう、定期的に点検し、清掃してください。



装置内部への異物の混入

装置内部への異物の混入を防ぐため、次のことに注意してください。異物によるショートや異物のたい積による内部温度上昇が生じ、装置の故障の原因となります。

- 通気孔などから異物を中に入れない
- 花ピン、植木鉢などの水の入った容器や虫ピン、クリップなどの小さな金属類を装置の上や周辺に置かない
- 装置のカバーを外した状態で使用しない



強い磁気の発生体

磁石やスピーカなどの強い磁気を発生するものを近づけないでください。システム装置の故障の原因となります。



落下などによる衝撃

落下させたりぶつけるなど、過大な衝撃を与えないでください。内部に変形や劣化が生じ、装置の故障の原因となります。



接続端子への接触

コネクタなどの接続端子に手や金属で触れたり、針金などの異物を挿入したりしてショートさせないでください。発煙したり接触不良の故障の原因となります。



煙霧状の液体

煙霧状の殺虫剤などを使用するときは、事前にビニールシートなどでシステム装置を完全に包んでください。システム装置内部に入り込むと故障の原因となります。また、このときシステム装置の電源は切ってください。



装置の輸送

システム装置を輸送する場合、常に梱包を行ってください。また、梱包する際はシステム装置背面から見て電源ユニットが下となるよう、向きに注意してください。梱包しなかったり、間違った向きで輸送すると、装置の故障の原因となります。なお、工場出荷時の梱包材の再利用は 1 回のみ可能です。



サポート製品の使用

流通商品のハードウェア・ソフトウェア（他社から購入される Windows も含む）を使用された場合、システム装置が正常に動作しなくなったり故障したりすることがあります。この場合の修理対応は有償となります。システム装置の安定稼動のためにも、サポートしている製品を使用してください。



バックアップ

ハードディスク / SSD のデータなどの重要な内容は、補助記憶装置にバックアップを取ってください。ハードディスク / SSD が壊れると、データなどがすべてなくなってしまう。



ディスクアレイを構成するハードディスク / SSD の複数台障害

リビルドによるデータの復旧、およびリビルド後のデータの正常性を保証することはできません。リビルドを行ってディスクアレイ構成の復旧に成功したように見えても、リビルド作業中に読めなかったファイルは復旧できません。

障害に備え、必要なデータはバックアップをお取りください。

なお、リビルドによるデータ復旧が失敗した場合のリストアについては、お客様ご自身で行っていただく必要があります。

（リビルドによる復旧を試みる分、復旧に時間がかかります。）

本マニュアル内の警告表示

警告

周辺機器の接続

周辺機器を接続するときは、特に指示がない限りすべての電源プラグをコンセントから抜き、すべてのケーブル類を装置から抜いてください。感電や装置の故障の原因となります。

また、マニュアルの説明にしたがい、マニュアルで使用できることが明記された周辺機器・ケーブル・電源コードを使用してください。それ以外のものを使用すると、接続仕様の違いにより周辺機器や装置の故障、発煙、発火や火災の原因となります。

『関連ページ』 → [P.33](#)

注意

不安定な場所での使用

傾いたところや狭い場所など不安定な場所には置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがや装置の故障の原因となります。

『関連ページ』 → [P.32](#)

重量物の取り扱い

装置などの重量物を移動したり持ち上げたりする場合は、むりをせずリフターなどの器具を使用したり、2人以上で扱うなどしてください。腕や腰を痛める原因となります。

『関連ページ』 → [P.32](#)

ラック搭載

システム装置のラックキャビネットへの搭載・取り外しはすべて保守員が行います。搭載・取り外しは行わないでください。取り付け不備によりシステム装置が落下し、けがをしたり装置の故障の原因となります。

『関連ページ』 → [P.32](#)

ラックマウントキット

純正品以外のラックマウントキットを使用したり、ラックマウントキットを用いずにラックキャビネットに収納したりした状態では使用しないでください。システム装置の落下によるけがや装置の故障の原因となります。

『関連ページ』 → [P.32](#)

通知

USB デバイスの取り扱い

オプションの USB メモリー（FK802G/FK804G）をシステム装置前面の USB コネクタ（フロント）に接続したままの状態でもラックキャビネットのフロントドアを閉めないでください。フロントドアと干渉して、故障の原因となるおそれがあります。

『関連ページ』 → [P.16](#)、[P.33](#)

キーボード、マウス、ディスプレイの取り扱い

キーボード、マウスはサポートしているオプション品を使用してください。その他のものを使用した場合、正常に動作しなかったり故障したりすることがあります。

『関連ページ』 → [P.21](#)、[P.34](#)

DVD-RAM ドライブの取り扱い

■ 次のことに注意して取り扱ってください。ドライブの故障の原因となります。

- ・ ビジーインジケータの点灯中に電源を切らない
- ・ トレイをむりに引き出したり押し込んだりしない
- ・ 割れたり変形したディスクをドライブに入れない
- ・ 異物をトレイに入れない
- ・ 手動イジェクト穴はドライブが壊れたとき以外使用しない

■ ラックキャビネットのフロントドアが閉じている状態で、ディスクをオートイジェクトまたはリモートイジェクトしないでください。また、トレイが引き出された状態でラックキャビネットのフロントドアを閉めないでください。

トレイがフロントドアと干渉して、故障の原因となるおそれがあります。

『関連ページ』 → [P.25](#)、[P.26](#)

システム装置の設置の向き

システム装置は正しく設置した状態で使用してください。縦向きに設置したり、上下を逆に設置したりしないでください。システム装置が正常に動作しなかったり、故障したりする原因となります。

『関連ページ』 → [P.32](#)

電源操作

■ 電源操作は決められた手順にしたがって行ってください。決められた手順にしたがわずに電源を入れたり切ったりすると、装置の故障やデータの消失の原因となります。

■ 電源を切る前に、すべてのアプリケーションの処理が終了していることと、接続されているデバイスや周辺機器にアクセスがない（停止している）ことをご確認ください。動作中に電源を切ると、装置の故障やデータの消失の原因となります。

■ シャットダウン処理を行う必要がある OS をお使いの場合、シャットダウン処理が終了してから電源を切ってください。データを消失するおそれがあります。

なお、OS により電源を切る手順が異なりますので、OS に添付されるマニュアルもあわせてご参照ください。

『関連ページ』 → [P.42](#)、[P.44](#)

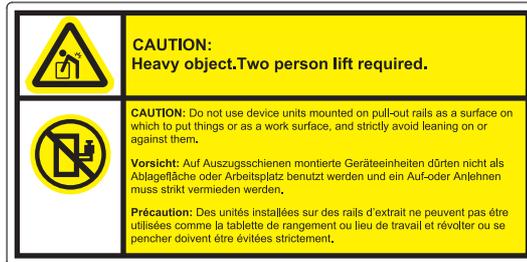
警告ラベルについて

警告ラベルはシステム装置の次に示す箇所に貼り付けられています。

システム装置を取り扱う前に、警告ラベルが貼り付けられていること、および警告ラベルの内容をご確認ください。もし警告ラベルが貼り付けられていなかったり、はがれやかすれなどで読みづらかったりする場合は、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。

また、警告ラベルは汚したりはがしたりしないでください。

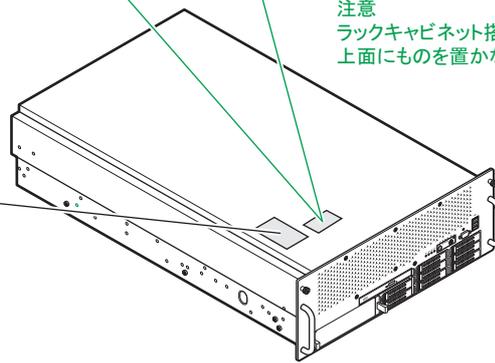
(次の警告ラベルのどちらかが貼り付けられています。)



注意	
 (最大重量50kg)	重量物注意 腕や膝を痛めるおそれあり。 2人以上で作業のこと。 またはリフタを使用して作業のこと。
	取り扱い注意 ラックキャビネット搭載時、 装置上面の空きエリアに重量物を置くと 落下によるけがのおそれあり。 装置上面の空きエリアを棚または 作業空間として使用しないこと。
	高温注意 火傷のおそれあり。 部品増設 / 交換の際は、保守マニュアルに従い 高温部に注意して作業のこと。
	感電注意 軽症または機器破損のおそれあり。 部品増設 / 交換の際は、保守マニュアルに従い 対象部品以外には触れないよう作業のこと。
	回転物注意 指、手の負傷のおそれあり。 部品増設 / 交換の際は、保守マニュアルに従い 回転物に触れないよう作業のこと。

(*意味)
注意
重量物のため2人以上で持ち上げること

注意
ラックキャビネット搭載時にシステム装置
上面にものを置かないこと



(感電注意) (分解禁止)

マニュアルの使いかた

ここではシステム装置に添付されるマニュアルについて説明します。

マニュアルの構成

システム装置に関するマニュアルは、次のように CD-ROM/DVD-ROM に収録された電子マニュアルと、紙のマニュアルに分かれています。

メディア名称／マニュアル名称	内容
 CD-ROM 『ユーザーズガイド』	システム装置のマニュアル『ユーザーズガイド』や付属ソフトウェア、オプションデバイスのマニュアルが収録されています。 システム装置やオプションデバイスなどの使いかたや使用上の注意、トラブルへの対処、オプションデバイスの増設、Windows のセットアップ手順などを説明しています。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 『Hitachi Server Navigator 関連マニュアル』 ■ 『JP1/ServerConductor 取扱説明書』 ■ ユーティリティソフトウェア取扱説明書（RAID 管理ツールなど） ■ 『取扱説明書 システム情報採取ツール』 ■ オプション 拡張ボード取扱説明書（LAN ボードなど） ■ オプション 内蔵デバイス取扱説明書（内蔵 DAT、内蔵 LTO など） 『ユーザーズガイド』CD-ROM のマニュアル収録内容については CD-ROM 内の「Index.html」をご参照ください。
 DVD-ROM 『Hitachi Server Navigator』	システム装置の導入、運用、メンテナンスをトータルにサポートする総合管理ツールです。 『Hitachi Server Navigator』の収録内容については DVD-ROM 内の「Support.html」をご参照ください。
 CD-ROM 『JP1/ServerConductor Blade Server Manager』	『JP1/ServerConductor』はシステム装置の管理ソフトウェアです。詳細については CD-ROM 内の次のマニュアルをご参照ください。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 『JP1/ServerConductor/Blade Server Manager系 設計・構築ガイド』 ■ 『JP1/ServerConductor/Blade Server Manager系 運用ガイド』
 紙マニュアル 『セットアップについて』	システム装置の設置や接続など、電子マニュアルを読むことのできないときに必要な内容を電子マニュアル『ユーザーズガイド』から抜粋したマニュアルです。

マニュアルは、これ以外にも必要に応じて『お詫びと訂正』などの添付シートが添付されます。また、外付けオプションをご購入された場合は、外付けオプションのマニュアルも添付されます。

添付される CD-ROM などのメディアやマニュアル、添付シートは、ご購入のシステム装置やオプションにより異なりますので、システム装置の『同梱品チェックリスト』や外付けオプションの『添付品一覧』をご確認ください。

すべての CD-ROM・DVD-ROM・紙のマニュアル・添付シートは破棄せず、必要なときに読むことができるよう大切に保管してください。

特に、黄色紙の添付シートが添付される場合、システム運用上重要な対処事項が記載されています。内容をよく確認し、十分理解してから対処・運用を行うようにしてください。

また、使用する前に各マニュアルの安全上の注意事項をよく読み、必ず守ってください。

なお、『ユーザーズガイド』CD-ROM に格納されるマニュアルの最新版は、次の URL で公開しています。

■ 「日立サーバマニュアル：HA8000」

<http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/OSD/pc/ha/manual/index.html>

『ユーザーズガイド』 CD-ROM について

『ユーザーズガイド』CD-ROMは、レーベルに次のバージョンと対象モデルが表記されたものをお使いください。

- バージョン：HA800012*** (“**”、“*”は任意の数字で、“**”は“11”以降、“*”は“1”以降)
- 対象モデル：RS440 AL2

『ユーザーズガイド』は内容により各編に分冊されています。各編の内容は次のとおりです。

マニュアル名称	内容
導入編	システム装置をお使いになる前に知っておいていただきたい内容と、安全に関する注意事項について説明しています。 また、システム装置の接続や設置、電源を入れる／切る操作について説明しています。
運用編	システム装置の運用時の監視や日常のお手入れ、エラーが発生した時や困った時の対処方法について説明しています。 また、交換が必要な有寿命部品と消耗品について説明しています。
オプションデバイス編	システム装置に内蔵するオプションデバイスの取り付けについて説明しています。
Windows セットアップ編	Windows のセットアップに関する情報を記載しています。 <u>Windows の新規・再セットアップ手順や使用上の制限については、『Hitachi Server Navigator OS セットアップガイド』で説明しています。</u>
BIOS 編	システム装置のシステム BIOS や RAID BIOS について、起動・終了と設定項目の内容について説明しています。 また、RAID BIOS からディスクアレイを設定する方法について説明しています。

『ユーザーズガイド』CD-ROMには、付属ソフトウェアやオプションデバイスのマニュアルも収録されています。『ユーザーズガイド』以外のマニュアルの詳細については『ユーザーズガイド』CD-ROM内の「Index.html」から、各マニュアルをご参照ください。

『Hitachi Server Navigator』 DVD について

『Hitachi Server Navigator』DVD は次の条件を満たすものをお使いください。なお、複数バージョンの『Hitachi Server Navigator』DVD がお手元にある場合、対象モデルに適合する最新バージョンをお使いください。

- バージョン：「02-0x」のもの（xは任意の数字）
- DVDの使用対象モデルとしてシステム装置が明記されているもの

『Hitachi Server Navigator』DVD のバージョンはレーベルに表示されています。また、『Hitachi Server Navigator』DVDの使用対象モデルは、DVDの「Support.html」に記載されています。

『JP1/ServerConductor Blade Server Manager』 CD-ROM について

『JP1/ServerConductor Blade Server Manager』CD-ROM はバージョン“09-54”以降をお使いください。

マニュアルの参照先

ここでは、システム装置の導入時や運用時にご参照いただく製品添付マニュアルおよび Web サイトについてご案内します。ぜひご一読いただき、お役立てください。

□ セットアップについて

システム装置のセットアップ時にご参照いただくマニュアルおよび Web サイトについてご案内します。

▶ セットアップの前に

システム装置をセットアップする前に、次のマニュアルを参照し、注意事項についてご確認ください。

- 『セットアップについて』または『ユーザーズガイド ～導入編～』「1 システム装置を導入する前に」

▶ システム装置の設置および接続

システム装置や周辺機器は、次のマニュアルを参照し、設置と接続を行ってください。

- 『セットアップについて』または『ユーザーズガイド ～導入編～』「3 システム装置の設置・接続」
- 外付けオプション添付マニュアル

▶ プレインストールモデル／インストール代行サービス付モデルのセットアップ

Windows プレインストールモデル／インストール代行サービス付モデルの初回起動時は、次のマニュアルを参照し、セットアップを行ってください。

- 『ユーザーズガイド ～Windows セットアップ編～』
- 『ユーザーズガイド』CD-ROM 収録マニュアル

▶ OS レスモデルの OS セットアップ または OS 再セットアップ

OS レスモデルにおける OS のセットアップ、または OS 再セットアップは、次のマニュアルを参照して行ってください。

- 『ユーザーズガイド』CD-ROM 『Hitachi Server Navigator OS セットアップガイド』

▶ 付属ソフトウェアのセットアップ

付属ソフトウェアは、次のマニュアルを参照し、セットアップを行ってください。

- 『ユーザーズガイド』CD-ROM 収録マニュアル※
- 『JP1/ServerConductor Blade Server Manager』CD-ROM 収録マニュアル

※ご使用になる OS に合わせてご参照ください。

▶ オプションデバイスのドライバ・ユーティリティのセットアップ

オプションデバイスは次のマニュアルを参照し、ドライバやユーティリティなどのセットアップを行ってください。

- 『ユーザーズガイド』 CD-ROM 収録マニュアル
…オプション 拡張ボード取扱説明書、オプション 内蔵デバイス取扱説明書
- 外付けオプション添付マニュアル

セットアップ時には、「HA8000 ホームページ」のダウンロードサイトで最新のドライバやユーティリティ、BIOS、ファームウェアがないか確認してください。

URL : <http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/OSD/pc/ha/download/index.html>

特に、黄色紙の添付シートが添付される場合、システム運用上重要な対処事項が記載されています。内容をよく確認し、十分理解してから対処事項を実施してください。

また、黄色紙ではない添付シートに対処事項が記載されている場合も、同様に実施してください。

その他、『お詫びと訂正』が添付される場合は忘れずに確認してください。

□ システム運用について

システム装置の運用時、定期的に行っていただく内容とその参照先についてご案内します。

詳細については『ユーザーズガイド ～運用編～』をご参照ください。

- 管理ユーティリティ『JP1/ServerConductor』によるモニタリングを行ってください。[毎日]
 - ◆ 『ユーザーズガイド』CD-ROM『JP1/ServerConductor/Blade Server Manager 系 運用ガイド』
- RAID 管理ツール『Hitachi RAID Navigator』または『MegaRAID Storage Manager』によるモニタリングを行ってください。[毎日]
 - ◆ 『ユーザーズガイド』CD-ROM『Hitachi Server Navigator ユーザーズガイド RAID 管理機能』
 - ◆ 『ユーザーズガイド』CD-ROM『MegaRAID Storage Manager 取扱説明書』
- ドライバ、ユーティリティ、BIOS、ファームウェアのアップデートが無いが、「HA8000 ホームページ」のダウンロードサイトを確認してください。[1ヶ月に1回程度]
URL : <http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/OSD/pc/ha/download/index.html>
- OSの制限事項などが新たに判明していないか、「HA8000 ホームページ」「製品」サイトの「ソフトウェア」を確認してください。[1ヶ月に1回程度]
URL : <http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/OSD/pc/ha/products/software/index.html>
- OSのセキュリティアップデートを確認・実施してください。[1ヶ月に1回程度]
 - ◆ OSベンダのサイトなど
- システム装置や内蔵オプション、外付けオプションの動作状況（ランプの点灯状態、FANの異常音の有無など）の確認を行ってください。[6ヶ月に1回程度]
 - ◆ 『ユーザーズガイド ～運用編～』「付録」「付録 A お手入れと交換品」
 - ◆ 『ユーザーズガイド』CD-ROM オプション 拡張ボード取扱説明書、オプション 内蔵デバイス取扱説明書

- システム装置や内蔵オプション、外付けオプションのクリーニングを行ってください。[6ヶ月に1回程度]
 - ◆ 『ユーザーズガイド ～運用編～』「付録」 「付録 A お手入れと交換品」
 - ◆ 『ユーザーズガイド』CD-ROM オプション 拡張ボード取扱説明書、オプション 内蔵デバイス取扱説明書
 - ◆ 外付けオプション添付マニュアル

□ 障害発生時について

システム装置の運用時に問題が発生した場合、その対処とご参照いただくマニュアルおよび Web サイトについてご案内します。

- 異常、エラー状況の確認
 - ◆ 『ユーザーズガイド ～運用編～』「付録」 「付録 C エラーが発生したときは」
 - ◆ 『ユーザーズガイド』CD-ROM 『Hitachi Server Navigator OS セットアップガイド』
 - ◆ 『ユーザーズガイド』CD-ROM オプション 拡張ボード取扱説明書、オプション 内蔵デバイス取扱説明書
 - ◆ 外付けオプション添付マニュアル
- 管理ユーティリティ『JP1/ServerConductor』アラートの確認 および ログの採取
 - ◆ 『ユーザーズガイド』CD-ROM 『JP1/ServerConductor/Blade Server Manager 系 運用ガイド』
 - ◆ 『ユーザーズガイド』CD-ROM 『JP1/ServerConductor/Blade Server Manager 系 メッセージ』
- RAID 管理ツール『Hitachi RAID Navigator』または『MegaRAID Storage Manager』のイベントログの確認
 - ◆ 『ユーザーズガイド』CD-ROM 『Hitachi Server Navigator ユーザーズガイド RAID 管理機能』
 - ◆ 『ユーザーズガイド』CD-ROM 『MegaRAID Storage Manager 取扱説明書』
- 『Log Monitor』のイベントログの確認
 - ◆ 『ユーザーズガイド』CD-ROM 『Hitachi Server Navigator ユーザーズガイド Log Monitor 機能』
- OS イベントログの確認※
 - ◆ OS 添付マニュアルおよび OS ベンダのサイトなど

※ 「IT Report Utility / システム情報採取ツール」により効率的に採取することができます。

異常状況を改善するためのドライバやユーティリティ、BIOS、ファームウェアが提供されている場合があります。「HA8000 ホームページ」のダウンロードサイトをご確認ください。

URL : <http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/OSD/pc/ha/download/index.html>

電子マニュアルの使いかた

ここでは、電子マニュアルを読む方法を説明します。

□ 使う前の準備

はじめに、Adobe Reader をインストールする必要があります。Windows が立ち上がるシステム装置に、次の手順でインストールしてください。

なお、すでに Acrobat、Acrobat Reader または Adobe Reader がインストールされているシステム装置を使用する場合、Adobe Reader をインストールする必要はありません。



Adobe Reader については、HCA センタまでお問い合わせください。アドビシステムズ株式会社では、お問い合わせを直接受け付けていません。

- 1 CD/DVD ドライブに『ユーザーズガイド』CD-ROM を入れます。
- 2 [スタート] – [ファイル名を指定して実行] をクリックします。
[ファイル名を指定して実行] が表示されます。
- 3 d:\¥Adobe_Reader¥AdbeRdr11002_ja_JP.exe と入力し、[OK] ボタンをクリックします。
d は CD/DVD ドライブ名を示します。
しばらくして [Adobe Reader XI セットアップ] が表示されます。
- 4 画面の指示にしたがってインストールします。
- 5 インストールが終了したら、CD/DVD ドライブから CD-ROM を取り出します。

□ 電子マニュアルを開く／閉じる

『ユーザーズガイド』CD-ROM を CD/DVD ドライブに入れると、OS のブラウザが起動して機種選択画面が表示されます。



CD-ROM を入れても何も表示されない場合は、[マイコンピュータ] の中の CD/DVD ドライブを開き、Index.html をダブルクリックしてください。

機種選択画面で各機種のマニュアルを選択すると、電子マニュアルが表示されます。

電子マニュアルを閉じるには、ウィンドウ右上の [×] ボタンをクリックします。



Acrobat、Acrobat Reader および Adobe Reader の使いかたについては、それぞれのヘルプをご参照ください。

目次

登録商標・商標	ii
発行	ii
著作権	ii
お知らせ	iii
重要なお知らせ	iii
システム装置の信頼性について	iii
規制・対策などについて	iii
システム装置の廃棄・譲渡時のデータ消去に関するご注意	v
はじめに	vi
マニュアルの表記	vi
安全にお使いいただくために	x
一般的な安全上の注意事項	xi
装置の損害を防ぐための注意	xiii
本マニュアル内の警告表示	xv
警告ラベルについて	xvii
マニュアルの使いかた	xviii
マニュアルの構成	xviii
マニュアルの参照先	xx
電子マニュアルの使いかた	xxiii
目次	xxiv
1 システム装置を導入する前に	1
1.1 納入時の確認	2
1.1.1 梱包品の確認	2
1.1.2 システム装置のモデルについて	2
1.2 設置環境	4
1.3 制限事項	5
1.3.1 システム装置・周辺機器の使用環境	5
1.3.2 システム装置・周辺機器の取り扱い	5
1.3.3 コンセントについて	7
1.4 付属ソフトウェアについて	9
1.4.1 Hitachi Server Navigator	9
1.4.2 JP1/ServerConductor	9
1.4.3 Hitachi RAID Navigator	10
1.4.4 MegaRAID Storage Manager	10
1.4.5 Log Monitor (ハードウェア保守エージェント)	10
1.4.6 IT Report Utility / システム情報採取ツール	10

1.5	セットアップの流れ	11
1.5.1	注意事項	11
1.5.2	セットアップ手順	11
2	システム装置の基礎知識	13
2.1	システム装置の特長	14
2.2	システム装置各部の名称と機能	15
2.2.1	前面	15
2.2.2	操作パネル	17
2.2.3	背面	19
2.3	内蔵 DVD-RAM の使いかた	24
2.3.1	各部の名称と機能	24
2.3.2	ディスクを入れる・取り出す	25
2.3.3	ディスクについて	27
2.3.4	取り扱いについて	28
2.3.5	DVD-RAM への書き込み	29
3	システム装置の設置・接続	31
3.1	システム装置の設置	32
3.2	システム装置の接続	33
3.2.1	ディスプレイ・キーボード・マウス	34
3.2.2	電源コード	35
3.2.3	無停電電源装置 (UPS)	37
3.2.4	LAN ケーブル	39
3.2.5	その他外付けオプションデバイス	40
4	電源の操作	41
4.1	電源を入れる / 切る	42
4.1.1	電源を入れる	42
4.1.2	電源を切る	44
5	仕様	47
5.1	システム装置の仕様	48
5.1.1	RS440 AL2 モデル	48

付録	51
付録 A お問い合わせ先	52
付録 A.1 最新情報・Q&A・ダウンロードは	52
付録 A.2 操作や使いこなしについて	53
付録 A.3 ハードウェア障害について	54
付録 A.4 欠品・初期不良・故障について	54
付録 A.5 技術的なお問い合わせ先について	54
付録 B サポート & サービスのご案内	55
付録 B.1 ハードウェア保守サービスについて	55
付録 B.2 技術支援サービスについて	57
付録 C ロングライフサポートサービスについて	58
付録 C.1 ロングライフサポートサービスの概要	58
付録 C.2 対象モデル	58
付録 C.3 セルフチェックシートについて	58
付録 D 預けて安心ロングライフモデルについて	59
付録 D.1 預けて安心ロングライフモデルの概要	59
付録 D.2 対象モデル	59
索引	60

1

システム装置を導入する前に

この章では、システム装置を導入する前に知っておいていただきたい設置環境や制限事項などについて説明します。

1.1 納入時の確認	2
1.2 設置環境	4
1.3 制限事項	5
1.4 付属ソフトウェアについて	9
1.5 セットアップの流れ	11

1.1 納入時の確認

システム装置が納入されたときにご確認いただきたい内容について説明します。

1.1.1 梱包品の確認

梱包を解いたら、『同梱品チェックリスト』ですべての添付品がそろっていることと、各部品に損傷がないことをご確認ください。不足している部品があったり、何か問題があるときは日立コールセンタにお問い合わせください。→「付録 A.4 欠品・初期不良・故障について」P.54

また添付される紙マニュアルや添付シートは、その記載内容について確認ください。

1.1.2 システム装置のモデルについて

お買い求めいただいたシステム装置のモデルは、システム装置に貼られているラベルの形名（TYPE）記載や、ご購入時にご指定いただいたセット形名で見分けることができます。

GQx442AL-xxxxxxx（x は任意の英数字）

■ [前から 7 桁目]：モデル区分

A：RS440 AL2 モデル（LSI 社製 RAID）

■ [後から 7 桁目]：保証区分

T：標準保証モデル（3 年無償保証）

その他：保証サービス アップグレードモデル

おまかせ安心モデル / おまかせ安心ロングライフモデル / ロングライフサポートモデル /
預けて安心ロングライフモデル

詳しくは添付される「保証書」や『おまかせ安心サポート＆サービスのご案内』をご参照ください。

■ [後から 3 桁目]：RAID 追加区分

G：RAID 追加機能あり

L：RAID 追加機能なし

▶ RAID 追加機能について

ご購入時に「RAID 追加機能あり」モデルと、次のソフトウェア形名をご指定いただくことで、標準搭載されるディスクアレイコントローラで RAID 追加機能を使用することができます。

- QQS-VSS7B3H0EX : MegaRAID Recovery 機能
- QQS-VSS7B3J0EX : MegaRAID FastPath 機能
- QQS-VSS7B3K0EX : MegaRAID CacheCade 機能

RAID 追加機能の詳細は『ユーザズガイド』CD-ROM に格納される『RAID 追加機能取扱説明書』をご参照ください。



RAID 追加機能はハードウェア構成により、使用できる機能が異なります。

1.2 設置環境

ここでは、システム装置を設置する環境について説明します。

項目	許容範囲
温度	10～35℃ [非動作時：0～40℃] * ロングライフサポートモデル、おまかせ安心ロングライフモデル、 預けて安心ロングライフモデル：10～28℃ [非動作時：0～40℃]
相対湿度	20～80% [非動作時：10～90%] (結露のないこと)
湿球温度	最大 27℃
温度上昇勾配	最大 10℃/時
設置スペース	

*1: 地震対策によりラックキャビネットを直接床固定する場合は、800mm 必要です。

*2: 同時に搭載されるシステム装置により、1000mm 必要となることがあります。

次のような場所には設置しないでください。

- 屋外など環境が安定しない場所
- 水を使用する場所の近く
- 直射日光の当たる場所
- 温湿度変化の激しい場所
- 電氣的ノイズを発生する機器の近く（モーターの近くなど）
- 強磁界を発生する機器の近く
- ごみ、ほこりの多い場所
- 傾いて水平にならない場所
- 振動の多い場所
- 結露の発生する場所
- 揮発性の液体の近く
- 腐食性ガス（亜硫酸ガス、硫化水素、塩素ガス、アンモニアなど）や塩分を多量に含む空気が発生する場所
- 周囲が密閉された棚や箱の中などの、通気が妨げられる場所

…
補足

- 温度・湿度が 25℃・50% の環境でお使いいただくことをお勧めします。
- ロングライフサポートモデル/おまかせ安心ロングライフモデル/預けて安心ロングライフモデルは、データセンターなどの機器専用ルームに設置して使用されることを前提としているため、温度条件がその他のモデルと異なります。

1.3 制限事項

ここではシステム装置や周辺機器の使用環境、使用方法における制限を説明します。

「装置の損害を防ぐための注意」P.xiii もあわせてご参照ください。

1.3.1 システム装置・周辺機器の使用環境

- システム装置は純正品のラックマウントキットを使用し、日立製ラックキャビネットに収納してください。システム装置単体では使用しないでください。
なお、システム装置のラックキャビネットへの搭載は保守員以外は行わないでください。システム装置をラックキャビネットに搭載する必要がある場合は、お買い求め先にご連絡いただくか保守員をお呼びください。
- 暑い場所や寒い場所では、しばらく空調などを使用し室温が安定してからお使いください。
- 直射日光の当たる場所や、ストーブなど発熱する器具の近くでは使用しないでください。
- ほこりが極端に多い場所では、使用しないでください。
- 極端に高温、低温の場所、または温度変化が激しい場所では使用しないでください。また、湿度が極端に高い場所では、使用しないでください。
- システム装置を使用する場所の近くで落雷が発生したり、電源の供給状態が悪い場合、使用中に瞬時停電や電圧低下が発生し、突然ディスプレイの表示が消えることがあります。このときは、一度システム装置の電源を切って起動し直してください。

1.3.2 システム装置・周辺機器の取り扱い

- システム起動中や使用中に、POWERスイッチをOFFにすると次回から立ち上がらないことがあります。この場合はお買い求め先にご連絡いただくか保守員をお呼びください。
- ほかのエレクトロニクス機器に隣接して設置した場合、お互いに悪影響を及ぼすことがあります。特に近くにテレビやラジオなどがある場合、雑音が入ることがあります。その場合は次のようにしてください。
 - ◆ テレビやラジオなどからできるだけ離す
 - ◆ テレビやラジオなどのアンテナの向きを変える
 - ◆ コンセントを別にする
- マウスは耐外来ノイズ性能が劣ります。マウスが誤動作する場合は、システム装置およびその周辺機器の電源を同一のノイズフィルター付き OA タップからとることをお勧めします。
- マウスの光センサー部に異物などが入ったときは、取り除いてください。異物が入るとマウスカーソルがなめらかに動かなくなります。
- システム装置にACを入力後、操作パネルのSYSTEM STATUS/FAULTランプが橙点灯から消灯するまでは、電源を入れないでください。SYSTEM STATUS/FAULT ランプが橙点灯中に電源を入れると、システム装置が立ち上がらないことがあります。

- システム装置の電源を切ってから入れるまでは、10 秒以上間隔を空けてください。またシステム装置への AC 供給を遮断（配電盤のブレーカ断や UPS のスケジュール機能による AC 出力 OFF など）してから再投入するまでは、30 秒以上間隔を空けてください。それぞれ必要時間を経過せずに行った場合、システム装置が立ち上がらないことがあります。
なお、電源を切る方法については、「4.1.2 電源を切る」P.44 に記載された手順にしたがってください。
- じゅうたんのある部屋でシステム装置を使用したり、システム装置の使用中にひざ掛けなどを使用すると、それらの材質によっては静電気が発生し、システム装置および周辺機器に悪影響を及ぼす場合があります。静電気の発生しにくい材質のものをお使いください。
- 工場出荷時の梱包材の再利用は 1 回のみ可能です。2 回以上再利用はしないでください。
- 内蔵デバイスの増設などシステム装置のカバーを外す作業はすべて保守員が行います。システム装置のカバーは取り外さないでください。
- 移動の際は周囲にぶつからないようにしてください。
- システム装置および内蔵デバイスは、定期的なお手入れが必要となります。『ユーザズガイド ～運用編～』「付録 A お手入れと交換品」を参照し、お手入れを行ってください。
- システム起動中、キーボードリセット (Ctrl + Alt + Delete) を実行しないでください。システムエラーとなります。
- 本システム装置の騒音値は 60dB 以下です。
専用室へ設置してください。また、設置環境や設置場所により、騒音が大きいと感じられることがありますので、環境や場所に十分ご注意の上、導入してください。
機器の発生騒音は ISO7779 準拠の測定条件（環境温度条件は 25 °C 以下／測定位置は機器の表面から前方 100cm および 150cm）による数値で表しています。
なお、本装置においては、装置内部温度によってファンの回転数制御を行っているため、高温環境下で最大負荷を継続した場合や、ファンが 1 つ故障した場合には本基準値を超えることがあります。また、電源投入時およびリブート時にもファン回転数が一時的に最大になるため、本基準値を超えることがあります。
- VMware 環境で使用する場合、保守作業でログを取得するために BMC ネットワークの設定が必要です。運用前に『ユーザズガイド ～運用編～』を参照し、設定してください。
VMware 環境以外でも保守作業で使用する場合がありますため、設定を行うことをお勧めします。
- USB 機器をシステム装置に接続した場合、コネクタの接触不良などにより、OS から認識されない場合があります。
認識されない場合は、一度システム装置から取り外し、再度取り付けてください。
- ネットワークインタフェースコネクタをネットワーク機器（スイッチング HUB など）へ接続せず、直接ほかのシステム装置のネットワークインタフェースコネクタへ接続しないでください。
通信できないおそれがあります。

1.3.3 コンセントについて

- システム装置が必要とするコンセントプラグおよびコンセント仕様は次のとおりです。仕様を満たすものをお使いください。

[AC100V 用電源コード (システム装置標準 / LG2251) 使用時]

電源仕様	コンセント形式・容量	形状	
		プラグ	コンセント
AC100V ± 10V 50Hz/60Hz ± 1Hz	接地型 2 極差込コンセント 15A-125V	 (JIS-C-8303 *1)	 (JIS-C-8303 *2) (IEC60083 A5-15)

*1: NEMA5-15P 相当です。

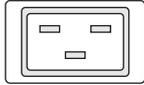
*2: NEMA5-15R 相当です。

[AC200V 用電源コード (LG2252) 使用時]

電源仕様	コンセント形式・容量	形状	
		プラグ	コンセント
AC200V ± 20V 50Hz/60Hz ± 1Hz	接地型 2 極差込コンセント 15A-250V	 (IEC60320-C14)	 (IEC60320-C13)

- 電源設備側コンセントは、電気用品安全法取得のコンセントをお使いください。
- AC200V を使用する場合は、AC200V に対応したコンセントボックスユニットを介してコンセントや UPS に接続してください。
コンセントボックスユニットが必要とするコンセントプラグおよびコンセントの仕様は次のとおりです。

コンセントボックス ユニット (AC200V 用)	使用する電源ケーブル		必要とする コンセント
	形名	プラグ	
AG9PDU200V4	(付属品)	 (NEMA L6-30P)	 (NEMA L6-30R)

コンセントボックス ユニット (AC200V 用)	使用する電源ケーブル		必要とする コンセント
	形名	プラグ	
AG1206 AG1207	LG1040N	 (IEC60320-C20)	 (IEC60320-C19)
	LG1042N	 (NEMA L6-20P)	 (NEMA L6-20R)
	LG1045N	 (NEMA L6-30P)	 (NEMA L6-30R)

- コンセントは活性導線 (L:Line)、接地導線 (N:Neutral)、接地 (G:Ground) から成ります。お使いになる前に、接地導線と接地が同電位であることをご確認ください。



システム装置に AC100V 用 電源コード* (システム装置標準 / LG2251) と AC200V 用 電源コード* (LG2252) を混在接続しないでください。異なる電圧供給での動作はサポートしておりません。

1.4 付属ソフトウェアについて

ここではシステム装置に付属しているソフトウェアを説明します。これらのソフトウェアはインストールしてお使いください。

各ソフトウェアのサポート OS については、それぞれのマニュアルをご参照ください。



システム装置は、使用中にエラーが発生してもブザーを鳴らす機能を持ちません。CPU エラーや温度エラー発生時は、システム装置前面の「SYSTEM STATUS/FAULT ランプ」によりエラーを通知しますが、システム装置の近くにオペレータが居ない運用形態においては、通知を見過ごすおそれがあります。

このため、「JP1/ServerConductor」と「Hitachi RAID Navigator」または「MegaRAID Storage Manager」は漏れなくインストールしてください。

また、「Log Monitor」と「IT Report Utility」/「システム情報採取ツール」も、障害発生時の復旧時間短縮のために漏れなくインストールしてください。

1.4.1 Hitachi Server Navigator

「Hitachi Server Navigator」は、OS のインストールから状態監視など、サーバの導入、運用、メンテナンスをトータルにサポートする統合管理ツールです。主な機能は次のとおりです。

- Windows OS のインストールをサポートします。
- 容易にディスクアレイを構築できる RAID 管理ツール「Hitachi RAID Navigator」をサポートしています。
- システム装置に障害が発生した場合に自動解析を行う「Log Monitor (ハードウェア保守エージェント)」をサポートしています。

上記の機能を使用する場合は、「Hitachi Server Navigator」をインストールする必要があります。

使いかたの詳細は『ユーザーズガイド』CD-ROM に格納される『Hitachi Server Navigator ユーザーズガイド』をご参照ください。

1.4.2 JP1/ServerConductor

「JP1/ServerConductor」は、システム装置の資産管理、障害管理を行うために必要なソフトウェアです。インストールすることで、システム装置を効率良く管理でき、また障害発生時にも素早く対処できます。

使いかたの詳細は『ユーザーズガイド』CD-ROM に格納される『JP1/ServerConductor/Blade Server Manager 系 設計・構築ガイド』および『JP1/ServerConductor/Blade Server Manager 系 運用ガイド』をご参照ください。

1.4.3 Hitachi RAID Navigator

RAID 管理ツール「Hitachi RAID Navigator」はディスクアレイを監視するツールです。「Hitachi RAID Navigator」と「MegaRAID Storage Manager」のいずれかをインストールする必要があります。「Hitachi RAID Navigator」は「MegaRAID Storage Manager」と比較して、ディスクアレイの構築の容易性と、シンプルで分かり易い GUI の採用などによる操作性を重視しています。

RAID 管理ツールはインストールを行わないとハードディスク障害を検知できず 2 重障害を引き起こしたり、障害発生時の解析に支障をきたします。

使いかたの詳細は『ユーザーズガイド』CD-ROM に格納される『Hitachi Server Navigator ユーザーズガイド RAID 管理機能』をご参照ください。

1.4.4 MegaRAID Storage Manager

RAID 管理ツール「MegaRAID Storage Manager」はディスクアレイを監視するツールです。「MegaRAID Storage Manager」と「Hitachi RAID Navigator」のいずれかをインストールする必要があります。既存環境において「MegaRAID Storage Manager」を使用している場合など、必要に応じて「MegaRAID Storage Manager」をインストールしてください。

RAID 管理ツールはインストールを行わないとハードディスク障害を検知できず 2 重障害を引き起こしたり、障害発生時の解析に支障をきたします。

使いかたの詳細は『ユーザーズガイド』CD-ROM に格納される『MegaRAID Storage Manager 取扱説明書』をご参照ください。

1.4.5 Log Monitor (ハードウェア保守エージェント)

システム装置の保守に必要なツールです。システム装置に障害が発生した場合、障害内容の自動解析を行います。これにより、障害内容の特定が容易となり、システム復旧時間の短縮に役立ちます。

使いかたの詳細は『ユーザーズガイド』CD-ROM に格納される『Hitachi Server Navigator ユーザーズガイド Log Monitor 機能』をご参照ください。



「ハードウェア保守エージェント」は「Log Monitor」に改称しました。

1.4.6 IT Report Utility / システム情報採取ツール

システムの構成確認に必要な情報、および障害の一次切り分けや調査／解析に必要な情報を、効率的に採取するためのツールです。

使いかたの詳細は『ユーザーズガイド』CD-ROM に格納される取扱説明書をご参照ください。



「システム情報採取ツール」は、バージョン 02-00 より「IT Report Utility」に改称しました。バージョン 02-00 よりも前のものは「システム情報採取ツール」の名称のままです。

1.5 セットアップの流れ

ここではセットアップの注意事項と手順について説明します。

1.5.1 注意事項

- セットアップを行う前に、必ず「安全にお使いいただくために」P.x をよくお読みいただき、安全には十分ご注意ください。
- 本マニュアル以外にシステム装置や内蔵オプションに添付されるマニュアルもお読みいただき、手順や方法を理解してから作業を行ってください。
- 本章で説明する以外にほかのマニュアルで特別な指示がある場合は、その指示にしたがってセットアップを行ってください。
- セットアップの途中で何らかのトラブルが発生した場合は、お買い求め先にご連絡いただくか保守員をお呼びください。

1.5.2 セットアップ手順

セットアップは次に示す手順で、参照先の内容にしたがって行ってください。

(1) プレインストール / 代行インストールサービスの場合

システム装置の設置	環境条件にしたがい、システム装置を設置します。 ■ 「3.1 システム装置の設置」P.32
システム装置の接続	セットアップに必要な装置をシステム装置に接続します。 ■ 「3.2 システム装置の接続」P.33 ■ 外付けオプション添付マニュアル
電源を入れる	システム装置の電源を入れます。 ■ 「4.1.1 電源を入れる」P.42
プレインストールモデル / インストール代行サービスモデルのセットアップ	システム装置にプレインストールもしくは代行インストールされている OS のセットアップを行います。 ■ 『ユーザーズガイド ～ Windows セットアップ編～』 ■ 『ユーザーズガイド』CD-ROM 収録マニュアル
付属ソフトウェアのセットアップ	「JP1/ServerConductor」や「Hitachi RAID Navigator」など、システム装置の運用に必要なソフトウェアをインストールします。 ■ 『ユーザーズガイド』CD-ROM 収録マニュアル ■ 『JP1/ServerConductor Blade Server Manager』CD-ROM 収録マニュアル

オプションデバイスの増設・接続



オプションデバイスをシステム装置に増設・接続します。

- 『ユーザーズガイド ～オプションデバイス編～』
- 『ユーザーズガイド』 CD-ROM 収録マニュアル
- 外付けオプション添付マニュアル

オプションデバイスのドライバ・ユーティリティのセットアップ

オプションデバイスのドライバやユーティリティをインストールします。

- 『ユーザーズガイド』 CD-ROM 収録マニュアル
- 外付けオプション添付マニュアル

(2) OS 新規 / 再セットアップの場合

システム装置の設置



環境条件にしたがい、システム装置を設置します。

- 「3.1 システム装置の設置」 P.32

オプションデバイスの増設・接続



オプションデバイスをシステム装置に増設・接続します。

- 『ユーザーズガイド ～オプションデバイス編～』
- 『ユーザーズガイド』 CD-ROM 収録マニュアル
- 外付けオプション添付マニュアル

システム装置の接続



セットアップに必要な装置をシステム装置に接続します。

- 「3.2 システム装置の接続」 P.33
- 外付けオプション添付マニュアル

電源を入れる



システム装置の電源を入れます。

- 「4.1.1 電源を入れる」 P.42

BIOS の設定



使用するシステム装置の機能に合わせ、システム BIOS の設定を行います。

また、ディスクアレイの新規構築や構成・設定変更を行う場合、RAID BIOS から設定を行います。

- 『ユーザーズガイド ～ BIOS 編～』

OS のセットアップ



システム装置に OS をインストールします。

- 『ユーザーズガイド ～ Windows セットアップ編～』
- 『Hitachi Server Navigator OS セットアップガイド』
- 『ユーザーズガイド』 CD-ROM 収録マニュアル※
- インストールメディア添付マニュアル (Linux、VMware)

※ご使用になる OS に合わせてご参照ください。

付属ソフトウェアのセットアップ



「JP1/ServerConductor」や「Hitachi RAID Navigator」など、システム装置の運用に必要なソフトウェアをインストールします。

- 『ユーザーズガイド』 CD-ROM 収録マニュアル
- 『JP1/ServerConductor Blade Server Manager』 CD-ROM 収録マニュアル

オプションデバイスのドライバ・ユーティリティのセットアップ

オプションデバイスのドライバやユーティリティをインストールします。

- 『ユーザーズガイド』 CD-ROM 収録マニュアル
- 外付けオプション添付マニュアル

2

システム装置の基礎知識

この章では、システム装置の各部の名称と基本的な使いかたについて説明します。

2.1 システム装置の特長.....	14
2.2 システム装置各部の名称と機能	15
2.3 内蔵 DVD-RAM の使いかた.....	24

2.1 システム装置の特長

ここでは、システム装置の特徴について説明します。

HA8000/RS440 AL2

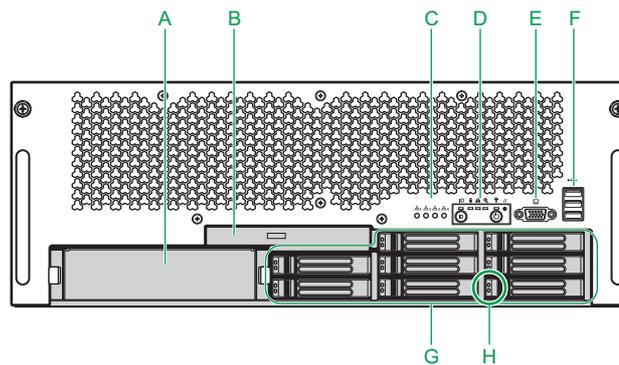
優れた処理性能と耐障害性を持った、大中規模システム向けハイパフォーマンスサーバ。
=====

- インテル Xeon プロセッサ E7-4800 製品ファミリーサポート
- 低電圧メモリー採用
- おまかせ安心モデル 3年 / 4年 / 5年対応
- おまかせ安心ロングライフモデル 6年 / 7年対応
- 預けて安心ロングライフモデル対応
- 2.5型 SAS ハードディスク 8台搭載可能
- SSD (Solid State Drive) 200GB サポート
- AC200V サポート
- 80 PLUS GOLD 認証電源採用
- ハードウェア冗長化対応 (システムファン、電源ユニット)

2.2 システム装置各部の名称と機能

ここでは、システム装置各部の名称と機能について説明します。

2.2.1 前面



A 拡張ストレージベイ (5 型)

リムーバブルデバイスを 1 台増設できます。

→ 『ユーザズガイド ~オプションデバイス編~』 「4 内蔵デバイスを取り付ける」

…
補足

リムーバブルデバイスのうち、内蔵 LTO はシステム装置のフロントベゼルよりも前方に約 7mm はみ出した状態で取り付けられます。
内蔵 DAT (UD716A) ははみ出しません。

B 拡張ストレージベイ (5 型：薄型)

内蔵 DVD-RAM ドライブが標準で装備されています。

C LAN STATUS ランプ 1、2、3、4 (緑) < 点滅 >

システム装置背面のネットワークインタフェースコネクタの状態を示しています。LAN STATUS ランプ 1、2、3、4 がそれぞれネットワークインタフェースコネクタ 1、2、3、4 に対応しています。

LAN STATUS ランプ 1 LAN STATUS ランプ 2 LAN STATUS ランプ 3 LAN STATUS ランプ 4	動作状態
消灯	LAN 未接続または未通電
点灯	リンク確立
点滅	データ送受信中

D 操作パネル

システム装置を操作するためのスイッチや、システム装置の状態を表すランプなどがあります。
→「2.2.2 操作パネル」P.17

E ディスプレイインタフェースコネクタ <□>

使用しません。ディスプレイは接続しないでください。

F USB コネクタ (フロント) <≡>

オプションの USB メモリー (FK802G/FK804G) などの USB 対応機器を使用するときに接続します。

通知

オプションの USB メモリー (FK802G/FK804G) をシステム装置前面の USB コネクタ (フロント) に接続したままの状態ではラックキャビネットのフロントドアを閉めないでください。フロントドアと干渉して、故障の原因となるおそれがあります。



サポートしていない USB 機器を接続した場合、システム装置の動作に影響をおよぼすおそれがあります。

G 拡張ストレージベイ (2.5 型) 1～8

内蔵ハードディスク (2.5 型) を最大 8 台搭載可能です。
→『ユーザーズガイド ～オプションデバイス編～』「4 内蔵デバイスを取り付ける」

H HDD キャニスタランプ (緑および橙)

点灯のしかたによって、次のように HDD キャニスタに搭載された内蔵ハードディスクおよび内蔵 SSD の状態を示します。

- ◆ 内蔵ハードディスク / 内蔵 SSD (SAS タイプ) の場合

ランプ (下: 緑)	ランプ (上: 橙)	動作状態
消灯	消灯	未通電または未搭載
点灯	消灯	通電中
点滅	消灯	アクセス中
消灯	点灯	エラー発生
点滅	点滅	データリビルド中

- ◆ 内蔵 SSD (SATA タイプ) の場合

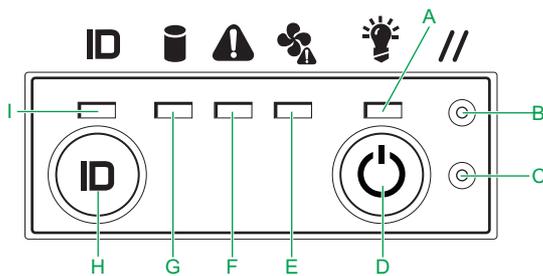
ランプ (下: 緑)	ランプ (上: 橙)	動作状態
消灯	消灯	・ 未通電または未搭載 ・ 通電中 (搭載時)
点滅	消灯	アクセス中
消灯	点灯	エラー発生
点滅	点滅	データリビルド中

2.2.2 操作パネル

システム装置の前面に、次のような操作パネルがあります。



操作パネルのランプは、となりの点灯、点滅が干渉して点灯色が変わって見えることがありますが、動作上問題ありません。
たとえば、SYSTEM ID ランプを点灯させると、SYSTEM STATUS/FAULT ランプの緑点灯は白点灯に変わって見えます。



A POWER ランプ (緑) <💡>

POWER スイッチを押してシステム装置の電源を投入すると点灯します。

B RESET スイッチ <⏪>

システム装置をハード的にリセット（再起動）するときに押します。



RESET スイッチは必要がある場合のみ押してください。通常の運用時では押さないでください。

C NMI スイッチ

NMI を発行するときに押します。



NMI スイッチはメモリダンプ取得時など NMI を意図的に発行するときのみ押してください。通常の運用時では押さないでください。

D POWER スイッチ <🔌>

システム装置の電源を入・切するときに押します。なお、POWER スイッチを 5 秒以上押し続けると、強制的に電源を切ることができます。

E FAN ERROR ランプ (橙) <🌀>

システム装置内のシステムファンに障害が発生した場合に点灯します。
システムファンはシステム装置前面に 8 つ搭載されています。

F SYSTEM STATUS/FAULT ランプ (緑または橙) <▲>

点灯のしかたによって、システム装置の動作状況を示します。

SYSTEM STATUS/FAULT ランプ	動作状態
消灯	・ AC 給電なし (電源コード未接続など) ・ AC 給電・スタンバイ状態 (電源コード接続・POWER スイッチ OFF)
緑点灯	パワーオン・正常動作中 (POWER スイッチ ON)
緑点滅	ハードウェアの冗長性が失われている状態
橙点灯	致命的 (クリティカル) なエラーが発生
橙点滅	致命的 (クリティカル) 直前のエラーが発生

SYSTEM STATUS/FAULT ランプが緑点滅した場合の対処について

SYSTEM STATUS/FAULT ランプが緑点滅したときの状態は、冗長化されている部位の冗長性が失われていることを示します。

運用上は問題ありませんが、電源、ファン、メモリーなどの冗長性を持つ部品の冗長性が失われているか、次のとおり状態を確認していただき、問題がある場合は対処してください。

確認部位	状態確認	意味・対処
電源ユニット	電源ユニットの POWER ランプが点灯していない	電源コードが電源ユニットおよびコンセントに接続されていること、およびコンセントに AC 給電されていることをご確認ください。
	電源ユニットの PS ERROR ランプが点灯している	電源ユニットに障害が発生しています。お買い求め先にご連絡いただくか保守員をお呼びください。
システムファン	FAN ERROR ランプが点灯している	フロントファンに障害が発生しています。お買い求め先にご連絡いただくか保守員をお呼びください。
メモリー (オンラインスペアメモリーまたはメモリーミラーリングを有効に設定している場合)	『JP1/ServerConductor』の通知アラートメッセージに「メモリー< DIMM xx >が縮退しています」メッセージが記録されている	メモリーに障害が発生したため、メモリーを縮退して稼働しています。お買い求め先にご連絡いただくか保守員をお呼びください。
システム装置 前面・背面	システム装置前面および背面にある通気孔のほごりの付着状態	通気が妨げられてシステム装置内温度が上昇している場合があります。システム装置前面および背面の通気孔のほごりを取り除いてください。5分ぐらい待ち、緑点灯に変われば問題ありません。緑点灯のままのときにはシステム装置を再起動し、さらに緑点滅の場合、お買い求め先にご連絡いただくか保守員をお呼びください。

なお、システム装置電源の AC 給電を遮断するまで、もしくは上記部品の冗長性が回復するまで、SYSTEM STATUS/FAULT ランプは緑点滅し続けます。緑点滅の状態では、定期的にも上記部品の状態を確認してください。

G ACCESS ランプ (緑) < 緑 >

内蔵 DVD-RAM にアクセスしているときに点灯します。なお、OS から内蔵 DVD-RAM に対してポーリングコマンドが発行された場合、内蔵 DVD-RAM のビジーインジケータは点灯しませんが、ACCESS ランプは点灯します。

H SYSTEM ID スイッチ < ID >

システム装置前面および背面の SYSTEM ID ランプを点灯させるときに押します。

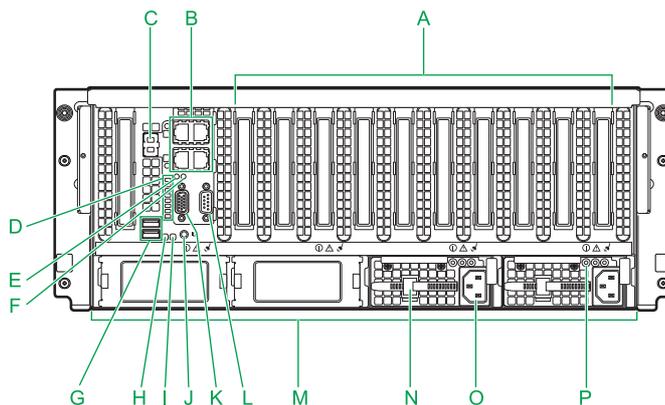
I SYSTEM ID ランプ (青) < ID >

システム装置前面および背面の SYSTEM ID スイッチを押すと点灯します。
SYSTEM ID ランプは目印などに使用するため点灯させます。システム動作には影響しません。

…
補足

SYSTEM ID ランプは点灯している状態で POWER スイッチを ON または OFF すると消灯します。

2.2.3 背面

**A 拡張スロット (PCI)**

PCI Express 仕様のボードを 10 枚まで取り付けることができます。スロット番号は左から順に 1、2、3～10 となります。→『ユーザズガイド ～オプションデバイス編～』「5 拡張ボードを取り付ける」
各 PCI スロットの仕様は次のとおりです。また、HotPlug PCI に対応したスロットは 1、2、6、7 です。

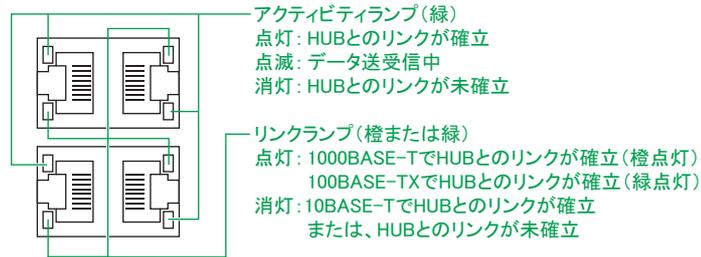
- スロット 1、2： PCI Express 2.0 x8 (8 レーン)、HotPlug 対応
- スロット 3、4： PCI Express 2.0 x4 (4 レーン)
- スロット 5： PCI Express 2.0 x16 (16 レーン)
- スロット 6、7： PCI Express 2.0 x8 (8 レーン)、HotPlug 対応
- スロット 8： PCI Express 2.0 x4 (4 レーン)
- スロット 9、10： PCI Express x4 (4 レーン)

…
補足

拡張スロット (PCI) 3、4、8、9、10 のスロット形状は PCI Express x8 ですが、PCI Express x4 で動作します。

B ネットワークインタフェースコネクタ 1、2、3、4 <🔌>

LAN ケーブルを接続します。上段右から時計回りの順にネットワークインタフェースコネクタ 1、3、4、2 となります。コネクタにあるステータスランプは次のとおりです。



制限

- ネットワークインタフェースコネクタへのLANケーブル接続は次のとおり取り扱ってください。取り扱いを誤ると、ネットワークインタフェースコネクタが破損したり、LANケーブルが破損・断線したりするおそれがあります。
 - ・ LAN ケーブルは RJ45/ISO8877 準拠のコネクタを使用したものをお使いください。
 - ・ LAN ケーブルはネットワークインタフェースコネクタに負荷がかからないようにルーティングしてください。
 - ・ LAN ケーブルを抜くときは、ケーブル側コネクタのフックを押しながまますぐ抜いてください。
- ネットワークインタフェースコネクタ1をBMC(Baseboard Management Controller)LANに設定し、接続した管理用のシステムコンソール端末から IPMI Over LAN 機能を使用する場合、通常のデータ通信用としては使用できません。データ通信用として共用した場合、通信異常が発生します。



補足

- OS上で表示されるオンボードLANのデバイスNo.は、ネットワークインタフェースコネクタの順序とは異なる場合があります。
- システム BIOS の「BMC LAN Configuration : BMC ネットワーク設定サブメニュー」の「Baseboard LAN configuration」の各設定をすることによって、ネットワークインタフェースコネクタ 1 に接続した管理用のシステムコンソール端末から IPMI Over LAN 機能を使用することができます。設定の詳細については『ユーザーズガイド～ BIOS 編～』「1.2.5 Server Management : サーバ管理メニュー」 「(3)BMC LAN Configuration : BMC ネットワーク設定サブメニュー」をご参照ください。

C マネジメントポート

BMC(Baseboard Management Controller) によるリモートマネジメント機能を使用する場合、オプションのRMMボード(CW7440)を取り付けます。RMMボード搭載時、管理用のシステムコンソール端末とLANケーブルで接続するマネジメントインタフェースコネクタがこのポートに取り付けられます。RMMボードやリモートマネジメント機能の詳細については、RMMボードに添付される『RMMボード取扱説明書』をご参照ください。

D POST コードランプ (緑)

システム装置の動作状態を示します。

POST コードランプはシステム BIOS の POST コードを 2 進数 4 ビットの 2 桁で示します。ランプ 1 ~ 4 が下位桁、ランプ 5 ~ 8 が上位桁で、それぞれランプ No. の大きい順に上位ビットになります。



POST (Power On Self Test) が正常に終了すると、ランプ 7、8 のみが点灯します (“CO” を示します)。

E CSS ランプ (黄) <CSS>

システム装置内のシステムファン、電源ユニットおよびメモリーライザボードの冗長性が失われたり、障害が発生した場合に点灯します。

F FAN ERROR ランプ (橙) <扇形>

システム装置内のシステムファンに障害が発生した場合に点灯します。
システムファンはシステム装置前面に 8 つ搭載されています。

G USB コネクタ (リア) <USB>

コンソール切替ユニットを介してキーボード、マウスを接続します。また、USB 対応機器を接続します。

通知

キーボード、マウスはサポートしているオプション品を使用してください。その他のものを使用した場合、正常に動作しなかったり故障したりすることがあります。



サポートしていない USB 機器を接続した場合、システム装置の動作に影響をおよぼすおそれがあります。

H SYSTEM STATUS/FAULT ランプ (緑または橙)

点灯のしかたによって、システム装置の動作状況を示します。

SYSTEM STATUS/FAULT ランプ	動作状態
消灯	・ AC 給電なし (電源コード未接続など) ・ AC 給電・スタンバイ状態 (電源コード接続・POWER スイッチ OFF)
緑点灯	パワーオン・正常動作中 (POWER スイッチ ON)
緑点滅	ハードウェアの冗長性が失われている状態
橙点灯	致命的 (クリティカル) なエラーが発生
橙点滅	致命的 (クリティカル) 直前のエラーが発生

SYSTEM STATUS/FAULT ランプが緑点滅したときの状態は、「[SYSTEM STATUS/FAULT ランプが緑点滅した場合の対処について](#)」 P.18 を参照して状態を確認していただき、問題がある場合は対処してください。

I SYSTEM ID ランプ (青)

システム装置前面および背面の SYSTEM ID スイッチを押すと点灯します。
SYSTEM ID ランプは目印などに使用するため点灯させます。システム動作には影響しません。



SYSTEM ID ランプは点灯している状態で POWER スイッチを ON または OFF すると消灯します。

J SYSTEM ID スイッチ

システム装置前面および背面の SYSTEM ID ランプを点灯させるときに押します。

K ディスプレイインタフェースコネクタ <□>

コンソール切替ユニットを介してディスプレイを接続します。

L シリアルインタフェースコネクタ (COM1) <|○|○>

モデムなどシリアルインタフェースを使用する機器を接続します。

M 電源スロット 1、2、3、4

電源ユニットが搭載されます。スロット番号は右から順に 1、2、3、4 となります。
電源スロット 1、2 には電源ユニットが標準で搭載されています。電源スロット 3、4 には冗長化用として、オプションの電源ユニット (BP2251) を搭載することができます。

→『ユーザーズガイド ~オプションデバイス編~』「6 電源ユニットを取り付ける」



ロングライフサポートモデル/おまかせ安心ロングライフモデル/預けて安心ロングライフモデルは電源スロット 3 にも電源ユニットが標準で取り付けられています。

N ケーブル結束バンド

電源コードを固定します。

O 電源コネクタ

電源コードを接続します。電源スロット 1、2 両方の電源ユニットに電源コードを接続します。オプションの電源ユニット (BP2251) を搭載している場合は、こちらにも電源コードを接続します。

P 電源ステータスランプ

左から POWER ランプ (緑)、PS ERROR ランプ (橙)、AC ランプ (緑) です。点灯のしかたによって、電源ユニットの状態を示します。

POWER ランプ	PS ERROR ランプ	AC ランプ	動作状態
消灯	消灯	消灯	AC 給電なし (すべての電源コードが未接続など)
点滅	消灯	点灯	・ AC 給電・スタンバイ状態 ・ パワーオン・コールドリタナダンシーモードによるスタンバイ状態 (電源コード接続・POWER スイッチ ON)
消灯	消灯	点滅	AC 給電なし (他の電源ユニットには AC 給電されている状態、電源コードの脱落など)
点灯	消灯	点灯	パワーオン・正常動作中 (電源コード接続・POWER スイッチ ON)
— *	点灯	— *	エラー発生 (障害、電源コード脱落など)
— *	点滅	— *	警告発生 (ファンの回転が遅くなるなど)

* 点灯・消灯いずれの状態にも関係しません。

コールドリダンダンシーモードについて

コールドリダンダンシーモードとは、システム装置の消費電力の状況に応じて搭載されている電源ユニットを自動で稼働・停止させ、電源ユニットに搭載されている冷却ファン停止により消費電力を削減する機能です。

なお、稼働している電源ユニットに障害が発生した場合は、電源ユニットが瞬時に稼働するため、そのまま運用を続けることができます。

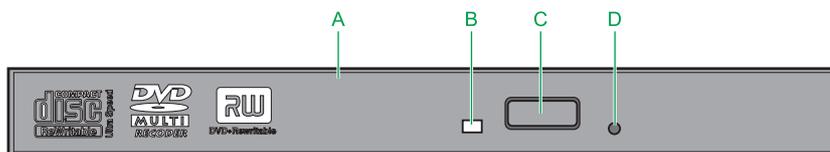
コールドリダンダンシーモードはデフォルトで有効になっており、無効に設定することはできません。また、稼働・停止する電源ユニットを選択することはできません。

2.3 内蔵 DVD-RAM の使いかた

ここでは、システム装置に標準搭載される内蔵 DVD-RAM の使いかたについて、説明します。
なお、その他のオプションデバイスの使いかたについては、オプションデバイスに添付されるマニュアルをご参照ください。

2.3.1 各部の名称と機能

ここでは、内蔵 DVD-RAM ドライブの各部の名称と機能について説明します。



A トレイカバー

ディスクを載せるためのトレイの開閉口です。

B ビジーインジケータ

起動時に点灯します。またアクセス中に点滅します。

C イジェクトボタン

トレイを開けます。

…
補足

電源が入っているときしかトレイは開閉できません。またコマンドでボタンによるディスクの取り出しを禁止しているときは、イジェクトボタンでディスクを取り出すことはできません。

D 手動イジェクト穴

ドライブの故障によりディスクが取り出せなくなったときに、強制的に取り出すための穴です。電源を切り、約 15 秒待ったあと、細い棒を穴に差し込んで、棒の先があたった位置から少し押しすと、トレイが少し開きます。その後、トレイを手で引き出してディスクを取り出します。

使用する棒は、直径 1.0 ~ 1.4mm、長さ 30mm 以上の丈夫なものにしてください。クリップを伸ばしたものが一般によく使われます。

2.3.2 ディスクを入れる・取り出す

ここでは、内蔵 DVD-ROM ドライブへのディスクの入れかた・取り出しかたを説明します。

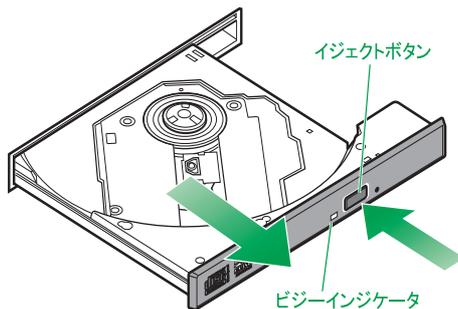
通知

次のことに注意して取り扱ってください。ドライブの故障の原因となります。

- ビジーインジケータの点灯中に電源を切らない
- トレイをむりに引き出したり押し込んだりしない
- 割れたり変形したディスクをドライブに入れない
- 異物をトレイに入れない
- 手動イジェクト穴はドライブが壊れたとき以外使用しない

(1) ディスクを入れる

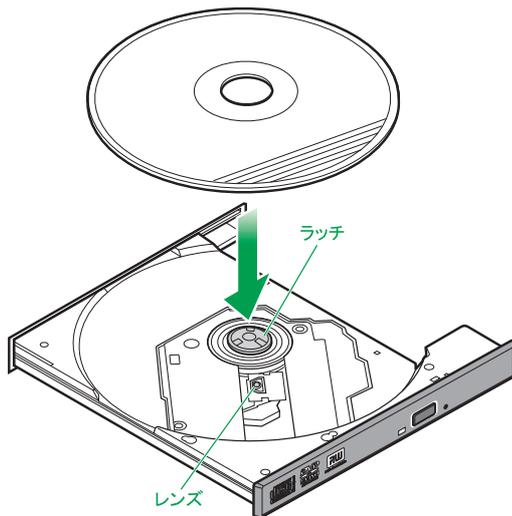
- 1 ビジーインジケータが点灯していないことを確認してイジェクトボタンを押し、トレイを出します。



- 2 ディスクの表側（ラベルが書かれている面）を上に向け、トレイにセットします。トレイにあるラッチにディスクのセンター穴をカチッと音がするまで入れます。

…
補足

レンズに触れないようご注意ください。



3 トレイを押して閉めます。



- トレイを押すときに、イジェクトボタンに触れないでください。トレイが閉まりません。また、トレイはまっすぐ押してください。斜め方向に押ししたりすると閉まらないことがあります。
- ディスク使用中に振動を与えないでください。データを正しく読めないことがあります。



- システム装置の電源を切るときは、ディスクを取り出してからにしてください。ディスクをドライブに入れたまま誤ってシステム装置の電源を切ったときは、再び電源を入れてシステム装置を起動してから取り出してください。
- ドライブが壊れてしまい、イジェクトボタンを押してもトレイが出ずにディスクが取り出せないときは、電源を切ったのち手動イジェクト穴に細いピンなどを差し込んで取り出してください。また、手動イジェクト穴を使うときは、ドライブの内部に異物が入らないようにしてください。

(2) ディスクを取り出す

ディスクの取り出しは、入れる場合と同じ手順で行ってください。

通知

ラックキャビネットのフロントドアが閉じている状態で、ディスクをオートイジェクトまたはリモートイジェクトしないでください。また、トレイが引き出された状態でラックキャビネットのフロントドアを閉めないでください。

トレイがフロントドアと干渉して、故障の原因となるおそれがあります。

2.3.3 ディスクについて

次のディスクを使用できます。使用するディスクによっては専用ソフトが必要です。



- ディスクをドライブに入れてすぐのときに、“Not Ready” など、準備ができていないことを示すエラーメッセージが表示される場合があります。このときはビジーインジケータが消灯するまでお待ちください。
- データ書き込み可能なディスクは、ディスクの種類および書き込んだ条件などにより、データを読み込めない場合があります。お使いになるの前に、使用されるディスクが本装置で読み込みできるか十分確認してください。
- 本ドライブは、CD-R/RW、DVD-R/RW および DVD+R/RW へのデータ書き込み機能を有していますが、サポートしておりません。DVD-RAM へのデータ書き込みのみサポートしております。



使用するディスクは汚れや傷、紫外線による劣化がないことを確認してください。

(1) 読み込み可能なディスク

- CD-DA (オーディオ CD)
- CD-ROM (mode1、mode2)
- CD-ROM XA (mode2 の form1、form2)
- CD-R/RW
- DVD-RAM
- DVD-ROM
- DVD-R/RW
- DVD-Video
- DVD+R/RW

(2) 書き込み可能なディスク

- DVD-RAM *1

*1 DVD-RAM への書き込みには条件があります。→ 「2.3.5 DVD-RAM への書き込み」 P.29

2.3.4 取り扱いについて

(1) ドライブの取り扱い

- ドライブを長くお使いいただくために温度環境は 30 °C 以下の場所での使用をお勧めします。
- 本ドライブの使用中に強い衝撃を与えないでください。
- ディスクを入れたり取り出したりするとき以外に、ドライブのトレイを開けないでください。
- メディアリードエラーが発生したときはクリーニングを行ってください。
→ 『ユーザーズガイド ~運用編~』
- 本ドライブは、CD-R/RW、DVD-R/RW および DVD+R/RW へのデータ書き込み機能を有していますが、サポートしておりません。DVD-RAM へのデータ書き込みのみサポートしております。
→ 「2.3.5 DVD-RAM への書き込み」 P.29

(2) ディスクの取り扱い

- ディスクをお手入れするときは、乾いた柔らかい布でディスクの中心から外周に向けて放射状に拭いてください。このとき、ベンジン、シンナー、水、レコードクリーナー、静電気防止剤、シリコンクロスなどで拭かないでください。
- ディスクからゴミや水分を取り除くのにドライヤーは使わないでください。
- ディスクは高温な場所で保管しないでください。
- ディスクを折ったり曲げたりしないでください。
- ディスクに字を書いたり傷を付けないでください。
- ディスクにラベルなどを貼らないでください。
- 小さなお子さまがディスクを傷つけたりしないよう、手の届かないところに保管してください。

2.3.5 DVD-RAM への書き込み

内蔵 DVD-RAM ドライブは、DVD-RAM へのデータ書き込みをサポートしています。
サポート OS、書き込み条件および書き込み方法は次のとおりです。

(1) サポート OS

- Windows Server 2012
- Windows Server 2008 R2 / Windows Server 2008

(2) 書き込み条件

- 消耗品である DVD-RAM メディア (DRM47PWC.S1P5S A) を使用してください。
→ 『ユーザーズガイド ~運用編』 「付録 A.4 消耗品」
- データの書き込みは Windows 標準機能の UDF フォーマットを使用してください。
ライティングソフトを使用したデータの書き込みはサポートしていません。

(3) 書き込み方法

DVD-RAM メディアを挿入し DVD-RAM ドライブのアイコンを開きます。書き込むデータをドラッグし、アイコンを開いたウインドウにドロップしてデータを書き込みます。

なお、新しい DVD-RAM メディアを使用する場合、初回に Windows でフォーマットをする必要があります。次のとおりフォーマットを行ってください。

- 1 [スタート] メニューなどから DVD-RAM ドライブのアイコンを右クリックし、「フォーマット」を選択します。
ダイアログが表示されます。
- 2 [開始] ボタンをクリックします。
フォーマットが開始されます。
「ファイルシステム」、「アロケーションユニットサイズ」は、それぞれ規定値の「UDF 2.01」、「2048 バイト」から変更しないでください。

3

システム装置の設置・接続

この章では、システム装置の設置と周辺機器の接続について説明します。

3.1 システム装置の設置.....	32
3.2 システム装置の接続.....	33

3.1 システム装置の設置

「1.2 設置環境」P.4を参照して設置場所の環境を確認します。ラックキャビネットの設置についてはラックキャビネットに添付の『ラックキャビネット取扱説明書』を参照してください。

なお、システム装置のラックキャビネットへの搭載は保守員以外には行わないでください。システム装置をラックキャビネットに搭載する必要がある場合は、お買い求め先にご連絡いただくか保守員をお呼びください。

⚠ 注意

- 傾いたところや狭い場所など不安定な場所には置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがや装置の故障の原因となります。
- 装置などの重量物を移動したり持ち上げたりする場合は、むりをせずリフターなどの器具を使用したり、2人以上で扱うなどしてください。腕や腰を痛める原因となります。
- システム装置のラックキャビネットへの搭載・取り外しはすべて保守員が行います。搭載・取り外しは行わないでください。取り付け不備によりシステム装置が落下し、けがをしたり装置の故障の原因となります。
- 純正品以外のラックマウントキットを使用したり、ラックマウントキットを用いずにラックキャビネットに収納したりした状態では使用しないでください。システム装置の落下によるけがや装置の故障の原因となります。

通知

システム装置は正しく設置した状態で使用してください。縦向きに設置したり、上下を逆に設置したりしないでください。システム装置が正常に動作しなかったり、故障したりする原因となります。

… 補足

- 地震などによる振動で装置の移動、転倒あるいは窓などからの飛び出しが発生し、重大な事故へと発展するおそれがあります。これを防ぐため、地震・振動対策を保守会社や専門業者にご相談いただき、実施してください。
- ねずみなどによるコンピュータシステムの被害として次のようなものがあります。これを防ぐため、ねずみ対策を専門業者にご相談いただき、実施してください。
 - ・ ケーブル類の被覆の破損断線
 - ・ 機器内部の部品の腐食、接触不良、汚損

3.2 システム装置の接続

ここでは、システム装置に周辺機器を接続する方法を説明します。

警告

周辺機器を接続するときは、特に指示がない限りすべての電源プラグをコンセントから抜き、すべてのケーブル類を装置から抜いてください。感電や装置の故障の原因となります。

また、マニュアルの説明にしたがい、マニュアルで使用できることが明記された周辺機器・ケーブル・電源コードを使用してください。

それ以外のものを使用すると、接続仕様の違いにより周辺機器や装置の故障、発煙、発火や火災の原因となります。

通知

オプションの USB メモリー (FK802G/FK804G) をシステム装置前面の USB コネクタ (フロント) に接続したままの状態でもラックキャビネットのフロントドアを閉めないでください。フロントドアと干渉して、故障の原因となるおそれがあります。



制限

- OS のセットアップを行う場合、操作を行うために必要なディスプレイ、キーボード、マウスのみを接続してください。その他の外付けオプションデバイスを接続すると、正常に OS がセットアップできない場合があります。これらの外付けオプションデバイスは、OS のセットアップが終了したあとに接続します。
- ネットワークインタフェースコネクタへの LAN ケーブル接続は次のとおり取り扱ってください。取り扱いを誤ると、ネットワークインタフェースコネクタが破損したり、LAN ケーブルが破損・断線したりするおそれがあります。
 - ・ LAN ケーブルは RJ45/ISO8877 準拠のコネクタを使用したものをお使いください。
 - ・ LAN ケーブルはネットワークインタフェースコネクタに負荷がかからないようにルーティングしてください。
 - ・ LAN ケーブルを抜くときは、ケーブル側コネクタのフックを押しながままっすぐ抜いてください。



補足

ケーブルの接続は基本的に保守員が行います。
なお、作業時は『ラックキャビネット取扱説明書』もご参照ください。

3.2.1 ディスプレイ・キーボード・マウス

通知

キーボード・マウスはサポートしているオプション品を使用してください。その他のものを使用した場合、正常に動作しなかったり故障したりすることがあります。

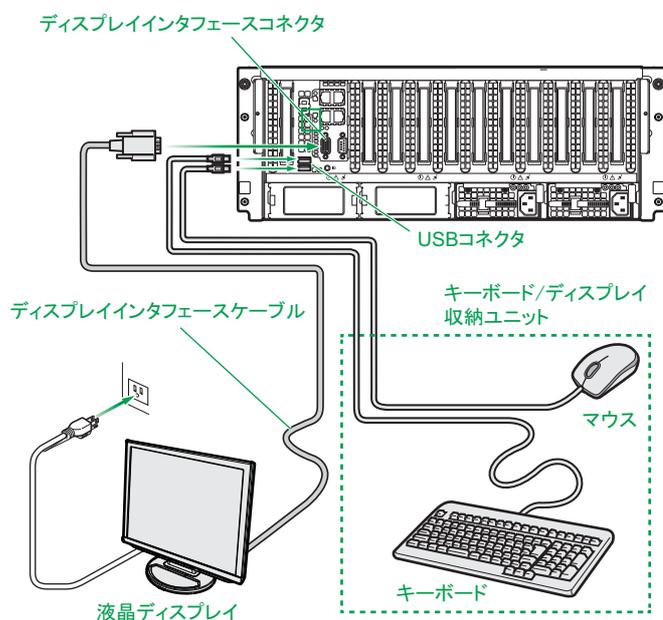
ディスプレイはシステム装置背面のディスプレイインタフェースコネクタにディスプレイインタフェースケーブルを接続し、キーボード・マウスはシステム装置背面の USB コネクタ (リア) に接続します。その後、ディスプレイの電源プラグをラックキャビネット内のコンセントボックスユニットまたは無停電電源装置 (UPS) に接続します。



- コンセントはアース付きの接地型 2 極のものをお使いください。
- 電源コードがアース線付きの 2 極の場合は、アース線をアース端子に取り付けたあとに電源プラグをコンセントに接続します。
- システム装置前面のディスプレイインタフェースコネクタおよび USB コネクタ (フロント) には接続しないでください。サポートしておりません。



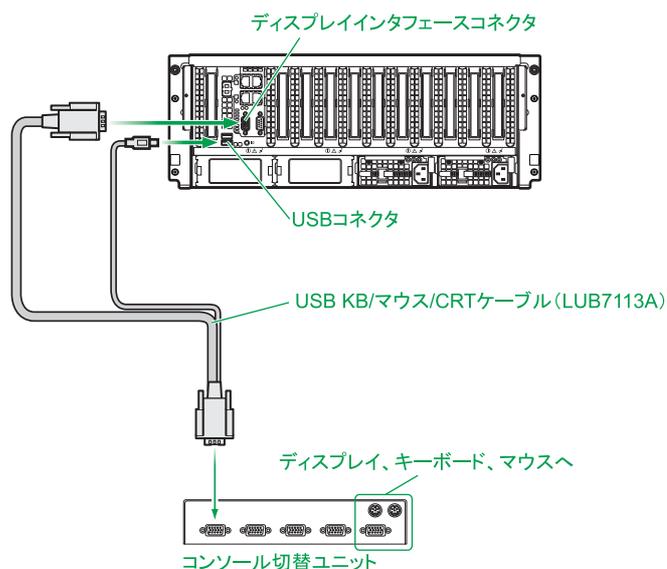
システム装置の構成を変更すると、Windows は最初の起動時に新ドライバの読み込みおよび新サービスの設定を行います。この間は USB ドライバが読み込まれないため、キーボードおよびマウスの入力が一時的にできません。システム装置の構成を変更した場合は、最初の Windows 起動時 1 ~ 2 分ほど待ってからキーボードおよびマウス入力を行ってください。



コンソール切替ユニットまたは、コンソール切替ユニットを搭載・内蔵しているディスプレイ／キーボードユニットを接続する場合、システム装置背面のディスプレイインタフェースコネクタおよび USB コネクタ（リア）に USB KB / マウス / CRT ケーブル（LUB7113A）を接続します。その後、ディスプレイやディスプレイ／キーボードユニット、コンソール切替ユニットの電源プラグをラックキャビネット内のコンセントボックスユニットまたは無停電電源装置（UPS）に接続します。

…
補足

コンソール切替ユニットやディスプレイ／キーボードユニットの接続については、それぞれに添付のマニュアルをご参照ください。



3.2.2 電源コード

電源スロット 1、2 の電源コネクタに電源コードを 2 本接続します。コンセントは AC100V 用 電源コード（システム装置標準 / LG2251）を使用する場合アース付きの接地型 2 極の AC100V が、AC200V 用 電源コード（LG2252）を使用する場合アース付きの接地型 2 極の AC200V が必要です。ラックキャビネット内のコンセントボックスユニットまたは無停電電源装置（UPS）に接続してください。

!
制限

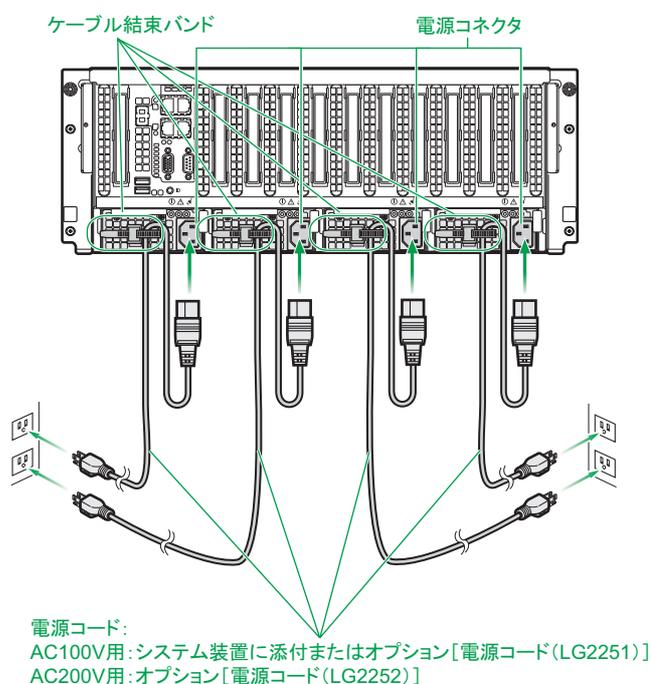
- システム装置に AC100V 用の電源コード（システム装置標準 / LG2251）と AC200V 用の電源コード（LG2252）を混在接続しないでください。異なる電圧供給での動作はサポートしていません。
- 電源コード長が足りない場合が多いため、商用電源のコンセントに直接接続しないでください。
- システム装置またはコンセントから電源プラグを抜いた場合、30 秒以上経過してから再接続してください。
これを行わないとシステム装置が起動しないことがあります。
- システム装置に AC を入力後、操作パネルの SYSTEM STATUS/FAULT ランプが橙点灯から消灯するまでは、電源を入れないでください。SYSTEM STATUS/FAULT ランプが橙点灯中に電源を入れると、システム装置が立ち上がらないことがあります。

…
補足

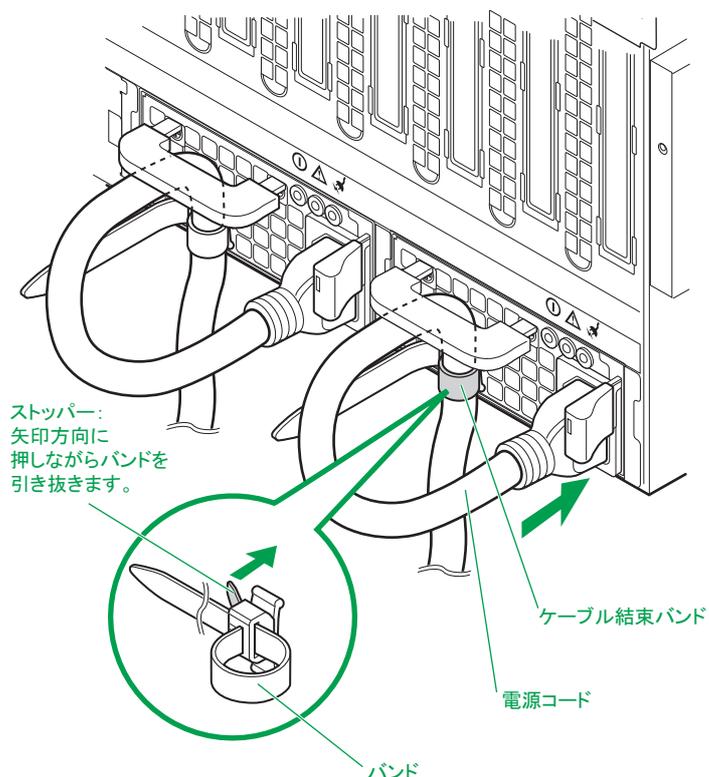
- オプションの電源ユニット (EP2251) を 1 つ搭載して冗長化構成としている場合は電源コードが 3 本、2 つ搭載して冗長化構成としている場合は電源コードが 4 本必要になります。AC100V 用は電源コード (LG2251) を、AC200V 用は電源コード (LG2252) を、増設した電源ユニットに接続します。
→『ユーザズガイド ~オプションデバイス編~』「6 電源ユニットを取り付ける」

ロングライフサポートモデル / おまかせ安心ロングライフモデル / 預けて安心ロングライフモデルは電源スロット 3 にも電源ユニットが標準で取り付けられています。

- 電源コードのプラグ形状や必要となるコンセント形状は、「1.3.3 コンセントについて」P.7 をご参照ください。
- UPS へ電源コードを接続する場合、「3.2.3 無停電電源装置 (UPS)」P.37 をご参照ください。
- コンセントボックスユニットや UPS についてはそれぞれに添付のマニュアルをご参照ください。
- AC200V 用電源コード (LG2252) を使用する場合、AC200V 用コンセントボックスユニットが常に必要となります。



電源コードは脱落防止のため、ケーブル結束バンドで固定してから、電源コネクタに接続し、電源コードにストレスがかからないよう余長を調整してください。ケーブル結束バンドのストッパーをシステム装置側に押し、バンドのロックが外れます。



3.2.3 無停電電源装置（UPS）

無停電電源装置（UPS）は、停電やブレーカ断などによってシステム装置への電源供給が停止された場合に電源を供給する装置です。

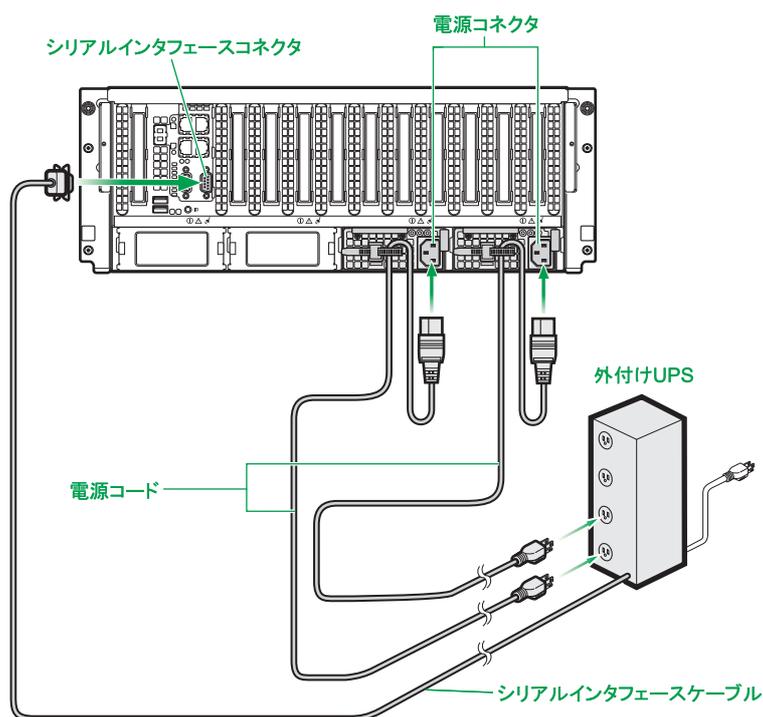
UPSはシステム装置に使用する電源コードの種類（AC100V用：システム装置標準またはLG2251 / AC200V用：LG2252）に対応したものをお使いください。また、使用するOSに対応したものをお使いください。UPSのハードウェア設定についてはUPS添付のマニュアルをご参照ください。



- UPSを使用している場合でも、停電などによりシャットダウンしたあと、復電してもシステム装置は自動で起動しません。自動で起動させるには別途UPS管理ソフトが必要になります。詳細についてはお買い求め先にお問い合わせください。また、これにあわせてセットアップメニューの設定を変更する必要があります。「Server Management」－「Resume on AC Power Loss」を「Last State」から「Reset」に設定してください。
- UPS管理ソフトを使用していない場合や自動で起動させない場合は、「Last State」のままお使いください。

補足

- セットアップメニューにおいて、UPS を接続するインターフェースを使用できるように設定する必要があります。詳しくは『ユーザズガイド ~ BIOS 編~』をご参照ください。
- オプションの電源ユニット (EP2251) を 1 つ搭載して冗長化構成としている場合は電源コードが 3 本、2 つ搭載して冗長化構成としている場合は電源コードが 4 本必要になります。
→ 『ユーザズガイド ~ オプションデバイス編~』「6 電源ユニットを取り付ける」
- Network Management Card (BUA702/BUA702A/BUA703/BUA703A) と UPS 管理ソフト「PowerChute Network Shutdown」を使用し、このオプションに適合する UPS を管理する場合、シリアルインターフェースではなく LAN で接続します。詳しくは各オプション添付マニュアルをご参照ください。



3.2.4 LAN ケーブル

システム装置を LAN や WAN などのネットワークに接続するために、システム装置背面にあるネットワークインタフェースコネクタとスイッチング HUB を LAN ケーブルで接続します。

ネットワークインタフェースコネクタは 4 つあります。

- ネットワークインタフェースコネクタ 1：オンボード LAN1 に接続
- ネットワークインタフェースコネクタ 2：オンボード LAN2 に接続
- ネットワークインタフェースコネクタ 3：オンボード LAN3 に接続
- ネットワークインタフェースコネクタ 4：オンボード LAN4 に接続

システム装置のオンボード LAN コントローラは、1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T に対応しています。使用する LAN ケーブルはエンハンスドカテゴリー 5 以上のものをお勧めします。

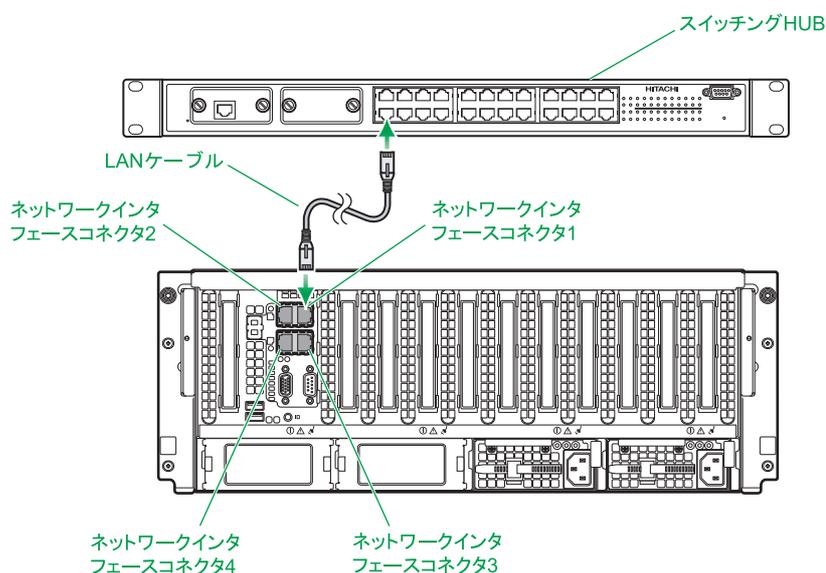


ネットワークインタフェースコネクタへの LAN ケーブル接続は次のとおり取り扱ってください。取り扱いを誤ると、ネットワークインタフェースコネクタが破損したり、LAN ケーブルが破損・断線したりするおそれがあります。

- ・ LAN ケーブルは RJ45/ISO8877 準拠のコネクタを使用したものをお使いください。
- ・ LAN ケーブルはネットワークインタフェースコネクタに負荷がかからないようにルーティングしてください。
- ・ LAN ケーブルを抜くときは、ケーブル側コネクタのフックを押しながらまっすぐ抜いてください。



- オンボード LAN (ネットワークインタフェース) は、デバイスマネージャ上で次のとおり表示されます。
 - ・ オンボード LAN1：PCI バス 4、デバイス 0、機能 0
 - ・ オンボード LAN2：PCI バス 4、デバイス 0、機能 1
 - ・ オンボード LAN3：PCI バス 1、デバイス 0、機能 0
 - ・ オンボード LAN4：PCI バス 1、デバイス 0、機能 1
- OS 上で表示されるデバイス No. は、ネットワークインタフェースコネクタの順序とは異なる場合があります。



3.2.5 その他外付けオプションデバイス

基本的な周辺機器であるディスプレイ、キーボード、マウス以外の外付けオプションデバイスをシステム装置に接続する場合は、それぞれの外付けオプションデバイスに添付されるマニュアルをご参照ください。

主な外付けオプションデバイスとして次のものがあります。

- 「ストレージシステム」
日立ディスクアレイシステム、エントリークラスディスクアレイ装置 など
- 「バックアップ用テープデバイス」
LTO ライブラリ装置、テープエンクロージャ 2 装置 など
- スイッチング HUB
- コンソール切替ユニット

▶ ストレージシステムの同時接続について

システム装置に接続できるストレージシステムは、次のうち 1 種類のみです。

- 日立ディスクアレイシステム (Fibre Channel インタフェースタイプ)
- 日立ディスクアレイシステム (iSCSI インタフェースタイプ)
- 日立ディスクアレイシステム (FCoE インタフェースタイプ)
- エントリークラスディスクアレイ装置 [BR1200]
- エントリークラスディスクアレイ装置 [BR1650]

これらのストレージシステムを同じシステム装置に混在接続することはできません。



種類の異なるストレージシステムを 1 台のシステム装置に接続した場合の動作は保証しません。



- 日立ディスクアレイシステムの接続の詳細は、日立ディスクアレイシステムや Fibre Channel ボード (Fibre Channel インタフェースタイプの場合)、LAN ボード / iSCSI ボード (iSCSI インタフェースタイプの場合)、FCoE ボード (FCoE インタフェースタイプの場合) のマニュアルをご参照ください。
- 日立ディスクアレイシステムを接続するための推奨オプションについては、お買い求め先にご確認ください。

4

電源の操作

この章では、システム装置の電源操作を説明します。

4.1 電源を入れる / 切る.....	42
----------------------	----

4.1 電源を入れる / 切る

ここでは、システム装置の電源の入れかた・切りかたについて説明します。

通知

電源操作は決められた手順にしたがって行ってください。決められた手順にしたがわずに電源を入れたり切ったりすると、装置の故障やデータの消失の原因となります。

4.1.1 電源を入れる

ここでは、電源を入れる手順について説明します。

電源を入れる前に、使用している電源コードに合わせてコンセントやコンセントボックスユニット、UPS に AC100V または AC200V が給電されていることをご確認ください。



- システム装置の電源を切ってから入れるまでは、10 秒以上間隔を空けてください。またシステム装置への AC 供給を遮断（配電盤のブレーカ断や UPS のスケジュール機能による AC 出力 OFF など）してから再投入するまでは、30 秒以上間隔を空けてください。それぞれ必要時間を経過せずに行った場合、システム装置が立ち上がらないことがあります。
なお、電源を切る方法については、「[4.1.2 電源を切る](#)」P.44 に記載された手順にしたがってください。
- 電源を入れてからは初期画面が表示されるまで、また POST のメモリーチェックが始まったあとは OS が起動するまで、電源を切らないでください。次回システム装置が立ち上がらないことがあります。



- コンセントボックスユニットや UPS についてはそれぞれに添付のマニュアルをご参照ください。
- オプションの USB メモリー（FK802G/FK804G）を接続してシステム装置の電源を入れたり再起動したりすると、USB メモリーからブートされます。USB メモリーは OS が起動してから接続してください。

1 ディスプレイなどの周辺機器の電源を入れます。



周辺機器によっては、システム装置よりもあとに電源を入れる必要がある場合があります。詳しくは周辺機器に添付されるマニュアルをご参照ください。
なお、OS のインストール時や、プレインストールモデル/インストール代行サービス付モデルではじめて電源を入れる場合は、外付けのディスクアレイ装置や SAS デバイスの電源は入れないでください。インストール先が正しく認識されません。

2 ラックキャビネットのフロントドアを開け、システム装置前面の 操作パネルにある POWER スイッチを押します。

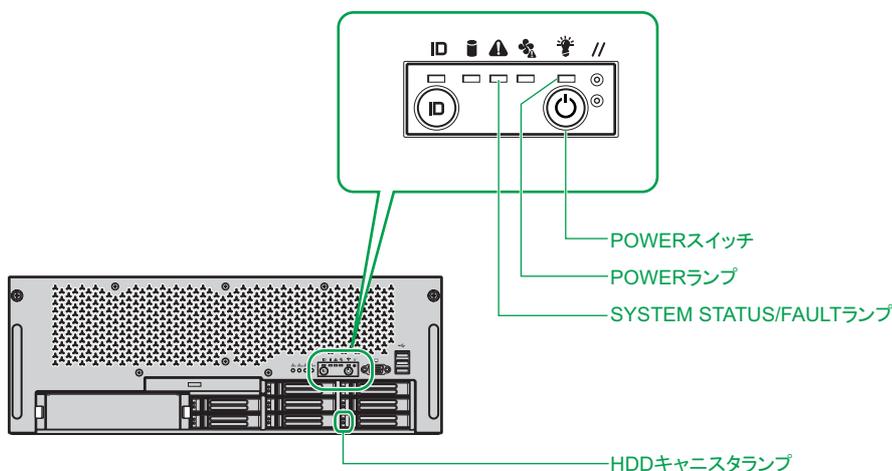
ラックキャビネットに添付の『ラックキャビネット取扱説明書』を参照し、フロントドアを開けてください。



システム装置に AC を入力後、操作パネルの SYSTEM STATUS/FAULT ランプが橙点灯から消灯するまでは、電源を入れないでください。SYSTEM STATUS/FAULT ランプが橙点灯中に電源を入れると、システム装置が立ち上がらないことがあります。



POWER スイッチは入・切の状態を記憶しています。セットアップメニューの設定および管理ソフトにより、UPS を使用しているときに停電などが発生した場合、電源復旧時すぐにシステム装置を起動することができます。



3 システム装置の電源が入ります。

システム装置前面の POWER ランプが緑色に点灯します。

プレインストールモデル/インストール代行サービス付モデルでは、はじめて電源を入れると OS のセットアップが開始されます。『ユーザズガイド ~ Windows セットアップ編~』を参照し、セットアップを行ってください。

OS がインストールされている場合は OS が立ち上がります。



- システム装置の構成を変更すると、Windows は最初の起動時に新ドライバの読み込みおよび新サービスの設定を行います。この間は USB ドライバが読み込まれないため、キーボードおよびマウスの入力が一時的にできません。システム装置の構成を変更した場合は、最初の Windows 起動時 1 ~ 2 分ほど待ってからキーボードおよびマウス入力を行ってください。
- 電源を入れてから初期画面が表示されるまでは、数分~ 10 分ほどかかります。システム装置に搭載されるメモリー容量が多いほど、表示されるまでに時間がかかります。システム装置の電源を入れると、システム装置の消費電力の状況に応じて電源ユニットがコールドリダンダンシーモードに設定されます。コールドリダンダンシーモードについては「コールドリダンダンシーモードについて」P.23 をご参照ください。

4.1.2 電源を切る

ここでは、電源を切る手順について説明します。

なお、セットアップの手順として、ここで電源を切る必要はありません。電源の操作は、セットアップ終了後、必要に応じて行ってください。



プレインストールモデル/インストール代行サービス付モデルのセットアップでは、通常、セットアップが終了するまで電源を操作することはありません。

(1) 電源を切る

通知

- 電源を切る前に、すべてのアプリケーションの処理が終了していることと、接続されているデバイスや周辺機器にアクセスがない（停止している）ことをご確認ください。
動作中に電源を切ると、装置の故障やデータの消失の原因となります。
- シャットダウン処理を行う必要がある OS をお使いの場合、シャットダウン処理が終了してから電源を切ってください。データを消失するおそれがあります。
なお、OSにより電源を切る手順が異なりますので、OSに添付されるマニュアルもあわせてご参照ください。

- 1 システム装置に接続されている周辺機器のアクセスがないことを確認します。
- 2 ラックキャビネットのフロントドアを開け、システム装置に搭載されているハードディスクの HDD キャニスタランプ（緑）が点滅していないことを確認し、システム装置の POWER スイッチを押します。

システム装置の電源が切れます。



周辺機器によっては、システム装置よりも前に電源を切る必要がある場合があります。詳しくは周辺機器に添付されるマニュアルをご参照ください。



OS がシャットダウンしたあと、自動で電源が切れる場合は POWER スイッチを押す必要はありません。

- 3 周辺機器の電源を切ります。

(2) 強制的に電源を切る

OS が正常に作動しなくなったときなど、POWER スイッチを押しても電源が切れないことがあります。この場合、POWER スイッチを 5 秒以上押し続けると電源を切ることができます。なお、セットアップ後において通常の方法で電源が切れない場合以外には行わないでください。

強制的に電源を切ったあと、OS やアプリケーションが正常に動作しなくなったり、保存データの安全性に問題が生じたりすることがあります。このような場合、OS やアプリケーションの再セットアップや、バックアップデータからの復旧を行ってください。

(3) アプリケーションの終了とリセット

アプリケーションの処理中にシステム装置が動かなくなった場合は、OS のアプリケーションを強制終了させたり、OS を強制的に再起動（リセット）すると、正常に動作する場合があります。OS に添付されるマニュアルをご参照ください。

なお、アプリケーションの強制終了やリセットを行ったあと、OS やアプリケーションが正常に動作しなくなったり、保存データの安全性に問題が生じたりすることがあります。このような場合、OS やアプリケーションの再セットアップや、バックアップデータからの復旧を行ってください。

5

仕様

この章では、システム装置の仕様についてを説明します。

5.1 システム装置の仕様.....	48
--------------------	----

5.1 システム装置の仕様

5.1.1 RS440 AL2 モデル

シリーズ		HA8000/RS440
モデル		AL2
シャーシタイプ		ラックタイプ [4U]
ディスクタイプ		SAS RAID (2.5 型)
CPU	サポート CPU (周波数)	インテル Xeon プロセッサ E7-4870 (2.40GHz) *1 / E7-4850 (2GHz) *1 / E7-4830 (2.13GHz) *1 / E7-4807 (1.86GHz) *1
	プロセッサ数 [コア数]	最小 2 [20] / 最大 4 [40] (Xeon プロセッサ E7-4870/E7-4850) 最小 2 [16] / 最大 4 [32] (Xeon プロセッサ E7-4830) 最小 2 [12] / 最大 4 [24] (Xeon プロセッサ E7-4807)
	1 次キャッシュ	データ 32KB + 命令 32KB / コア
	2 次キャッシュ	256KB / コア
	3 次キャッシュ	30MB (Xeon プロセッサ E7-4870) 24MB (Xeon プロセッサ E7-4850/E7-4830) 18MB (Xeon プロセッサ E7-4807)
チップセット		インテル 7500
クイックパスインターコネクト (QPI) 動作スピード		6.40GT/s (Xeon プロセッサ E7-4870/E7-4850/E7-4830) 4.80GT/s (Xeon プロセッサ E7-4807)
メインメモリー	サポート DIMM	2048MB/4096MB/8192MB/16384MB Registered DIMM (LV-DDR3 1066 SDRAM)
	エラー訂正	ECC (SDDC、オンラインスペアメモリー、メモリーミラーリング、ロックステップをサポート)
	メモリーライザボード	標準 2 / 最大 8
	スロット数	標準 16 / 最大 64 (8 スロット × 8)
	容量	最大 1024GB 最小 8GB
表示機能	アクセラレータ	Emulex Pilot 2 [オンボード]
	VRAM	32MB
	表示解像度 (表示色) *2	640 × 480 ドット (1677 万色)、800 × 600 ドット (1677 万色)、1024 × 768 ドット (1677 万色)、1280 × 1024 ドット (1677 万色)
ディスクコントローラ	コントローラ	LSI SAS 2108 ROC
	インタフェース	SAS 2.0, SATA
	キャッシュ容量	512MB
	RAID レベル	RAID 0, 1, 5, 6, 10, JBOD
	ホットプラグ	サポート
	ホットスペア *3	サポート

シリーズ		HA8000/RS440			
モデル		AL2			
デバイス	DVD-RAM	SATA 8倍速 /5倍速 (DVD-ROM リード /DVD-RAM リード) 薄型× 1			
	HDD *4	インタフェース	SAS 2.0		
		回転数	15000r/min	10000r/min	
		最大容量 (内蔵) *5	RAID 0	2400GB (300GB × 8HDD)	7200GB (900GB × 8HDD)
			RAID 5	2100GB (300GB × 8HDD)	6300GB (900GB × 8HDD)
	サポート容量	146GB、300GB	146GB、300GB、450GB、600GB、900GB		
	SSD *4	インタフェース	SATA	SAS 2.0	
		最大容量 (内蔵)	RAID 0	640GB (80GB × 8SSD)	1600GB (200GB × 8SSD)
			RAID 5	560GB (80GB × 8SSD)	1400GB (200GB × 8SSD)
		サポート容量	80GB	200GB	
拡張ストレージ ベイ	2.5 型ベイ	8			
	5 型ベイ	1			
	5 型ベイ (薄型)	1 (DVD-RAM 専用)			
拡張 スロット	PCI	スロット	PCI Express 2.0 x16 : 1 PCI Express 2.0 x8 : 4 PCI Express 2.0 x4 : 3 *6 PCI Express x4 : 2 *6 (拡張スロット (PCI) 1、2、6、7 でホットプラグ対応)		
		空きスロット	10		
標準インタフェース		ディスプレイ (ミニ D-SUB15 ピン) × 2 (前面 1、背面 1)、 シリアル (D-SUB9 ピン) × 1、USB × 5 (前面 3、背面 2) *7			
	LAN	コントローラ	Intel 82576NS × 2 [オンボード]		
		インタフェース	1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T × 4 (RJ-45)		
		Wake On LAN 機能	サポート *8		
外形寸法 *9		484 (W) × 770 (D) × 176 (H) mm			
質量		41.3kg (最大 : 54.3kg)			
サポート OS *10	Windows	Windows Server 2012 Standard 日本語版 (SPなし) *11 Windows Server 2012 Datacenter 日本語版 (SPなし) *11 Windows Server 2008 R2 Standard 日本語版 (SPなし /SP1) Windows Server 2008 R2 Enterprise 日本語版 (SPなし /SP1) Windows Server 2008 R2 Datacenter 日本語版 (SPなし /SP1) Windows Server 2008 Standard 日本語版 (SP2) *12 Windows Server 2008 Enterprise 日本語版 (SP2) Windows Server 2008 Datacenter 日本語版 (SP2) Windows Server 2008 Standard without Hyper-V 日本語版 (SP2) *12 Windows Server 2008 Enterprise without Hyper-V 日本語版 (SP2) Windows Server 2008 Datacenter without Hyper-V 日本語版 (SP2)			
	Linux	RHEL6.4 (64-bit x86_64) *13 *14 *15 *16 RHEL6.4 (32-bit x86) *13 *14 *15 *16 RHEL6.2 (64-bit x86_64) *13 *14 *15 *16 RHEL6.2 (32-bit x86) *13 *14 *15 *16 RHEL5.7 (AMD/Intel 64) *13 *14 *15 *17 RHEL5.7 (x86) *13 *14 *15 *17			
	VMware	VMware vSphere ESXi 5.1 (Updateなし /Update1) *14 *18 VMware vSphere ESXi 5.0 (Update1/Update2) *14 *18 VMware vSphere ESX 4.1 (Update3) *14 *18			
内蔵時計精度		± 120 秒 / 月			

シリーズ		HA8000/RS440
モデル		AL2
運用時消費電力 *19 / 最大消費電力	AC100V	1311W / 1726W
	AC200V	1264W / 1623W
運用時皮相電力 *19 / 最大皮相電力	AC100V	1318VA / 1738VA
	AC200V	1271VA / 1637VA
省エネ法に 基づく表示 (2011年度規定)	区分	L
	エネルギー 消費効率 *20 *21	インテル Xeon プロセッサ E7-4807 : 2.09
騒音値		60dB 以下 *22
温度条件 / 湿度条件		10 ~ 35 °C [非動作時 : 0 ~ 40 °C] / 20 ~ 80% [非動作時 : 10 ~ 90% (結露のないこと)]
電源	電圧	AC100V/AC200V 50/60Hz
	コンセント形状 (電源コード本数)	接地型 2 極差込コンセント (標準 2 本 / 冗長化時 4 本 (最大))
	冗長化電源	サポート (標準 2 / 最大 4) (ホットプラグ対応)
ENERGY STAR®		不適合

*1: 次の機能に対応しています。

Intel Hyper-Threading Technology / Intel Virtualization Technology / Intel 64 / NX (Execute Disable Bit) / Enhanced Intel SpeedStep Technology / Intel Turbo Boost Technology (インテル Xeon プロセッサ E7-4807 を除く)

*2: 使用するディスプレイや OS の制限などにより、実際に設定できる解像度・表示色は異なります。

*3: ディスクアレイの構成により、ホットスワップ用のハードディスクが搭載できない場合があります。

*4: ハードディスクの容量表記は、1GB=10⁹ バイトとして計算した容量です。

*5: システム BIOS では、OS ブート対象の論理ドライブは MBR (Master Boot Record) のパーティションテーブルのみサポートしております。MBR が認識可能な最大容量は 2TB (2199GB) です。
ディスクアレイは 2TB を超える容量を設定できますが、OS をインストールする論理ドライブの容量は 2TB を超えないように設定してください。超えてしまった場合、OS からパーティションが作成できなくなります。RAID 管理ツールや RAID BIOS からディスクアレイや論理ドライブを構築しなおしてください。

*6: スロット形状は PCI Express x8 ですが、PCI Express x4 で動作します。

*7: サポートしていない USB 機器を接続した場合、システム装置の動作に影響をおよぼすおそれがあります。
なお、仕様は USB 2.0 です。

*8: サポート OS 環境において、『JP1/ServerConductor』が必要になります。

*9: 突起物を含みます。

*10: 日本語版のみサポートしています。

*11: RMM ボード搭載時、リモートコンソール機能は使用できません。

*12: Windows Server 2008 Standard 32bit 版の場合、認識できるメモリ容量に制限があり、最大 4GB までしか認識することができないため、メインメモリーを最小容量 (8GB) で構成した場合でも、4GB しか認識できず、残りの 4GB は認識しません。

*13: Linux OS に関しては動作確認情報を公開するものであり、すべての動作を保証するものではありません。動作確認情報は次の URL でご確認ください。
<http://www.hitachi.co.jp/linux/>

*14: 「日立サポート 360」の OS サポートサービス契約を前提としてサポートします。搭載プロセッサ数に応じて、2 ソケット用または 4 ソケット用の OS サポートサービスを選択してください。

*15: RAID 追加機能のうち「MegaRAID Recovery 機能」使用時はサポートしておりません。

*16: カーネルバージョンは RHEL6.4 の場合「2.6.32-358.6.2.el6」を、RHEL6.2 の場合「2.6.32-220.4.2.el6」をサポートします。

*17: カーネルバージョンは「2.6.18-274.18.1.el5」をサポートします。

*18: RAID 追加機能使用時および RMM ボード搭載時はサポートしておりません。

*19: 通常運用時の目安です。

*20: エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を、省エネ法で定める複合理論性能 (GTOPS) で除したものです。

*21: インテル Xeon プロセッサ E7-4870/E7-4850/E7-4830 は省エネ法 (2011 年度規定) の規定対象外です。

*22: 専用室へ設置してください。また、設置環境や設置場所により、騒音が大きいと感じられることがありますので、環境や場所に十分ご注意の上、導入してください。
本装置においては、最大装置内部温度によってファンの回転数制御を行っているため、高温環境下で最大負荷を継続した場合や、ファンが 1 つ故障した場合には本基準値を超えることがあります。また、電源投入時およびリブート時にもファン回転数が一時的に最大になるため、本基準値を超えることがあります。



付録

付録 A お問い合わせ先.....	52
付録 B サポート&サービスのご案内.....	55
付録 C ロングライフサポートサービスについて	58
付録 D 預けて安心ロングライフモデルについて	59

付録 A お問い合わせ先

ここでは、ご質問や不具合の内容に応じたお問い合わせ先をご案内しています。

付録 A.1 最新情報・Q&A・ダウンロードは

「HA8000 ホームページ」で、製品情報や重要なお知らせ、技術情報、ダウンロードなどの最新情報を提供しています。

■ ホームページアドレス：<http://www.hitachi.co.jp/ha8000/>

次の「HA8000 ホームページ」のサイト情報は 2013 年 6 月現在の情報です。

▶ マニュアル

最新版のマニュアルを掲載しています。

サイトトップにある [マニュアル] アイコンをクリックしてください。または、[ダウンロード] タブをクリックした「ダウンロード」ページにある [製品添付マニュアル] をクリックしてください。

▶ ダウンロード

最新のドライバやユーティリティ、BIOS、ファームウェア アップデートプログラムなどを提供しています。

サイトトップにある [ドライバ・ユーティリティ新着情報] をクリックしてください。または、[ダウンロード] タブをクリックした「ダウンロード」ページにある [ドライバ・ユーティリティ新着情報] および [ドライバ・ユーティリティの検索] をクリックしてください。

各アップデートプログラムの適用についてはお客様責任にて実施していただきますが、システム装置を安全にお使いいただくためにも、[ドライバ・ユーティリティ新着情報] は定期的にアクセスして、最新のドライバやユーティリティ、BIOS、ファームウェアへ更新いただくことをお勧めします。

なお、お客様による BIOS、ファームウェア アップデート作業が困難な場合は、有償でアップデート作業を代行するサービスをご提供いたします。詳細はお買い求め先にお問い合わせください。

▶ 製品に関する重要なお知らせ

製品の使用における重要なお知らせを掲載しています。

サイトトップまたは、[サポート] タブをクリックした「サポート」ページにある [製品に関する重要なお知らせ] をクリックしてください。

▶ ハードウェア情報

製品の仕様や特徴などの情報を提供しています。必要に応じてご利用ください。

[製品] タブをクリックした「製品」ページにある [タワーサーバ] [ラックサーバ] [オプション機器] をクリックしてください。

▶ ソフトウェア情報

HA8000 シリーズのサポート OS や管理ソフトウェアに関連する情報を提供しています。必要に応じてご利用ください。

[製品] タブをクリックした「製品」ページにある [ソフトウェア] をクリックしてください。

▶ サポートサービス

HA8000 シリーズを安心してご利用いただくための、ハードウェアおよびソフトウェアのサポートサービス情報を掲載しています。必要に応じてご利用ください。

[サポート] タブをクリックした「サポート」ページにある [サポートサービス] をクリックしてください。

▶ よくあるご質問

よくあるご質問とその回答を掲載しています。お問い合わせいただく前に一度ご確認ください。

[サポート] タブをクリックした「サポート」ページにある [よくあるご質問] をクリックしてください。

付録 A.2 操作や使いこなしについて

本製品のハードウェアの機能や操作方法に関するお問い合わせは、HCA センタ（HITAC カスタマ・アンサ・センタ）でご回答いたしますので、次のフリーダイヤルにおかけください。受付担当がお問い合わせ内容を承り、専門エンジニアが折り返し電話でお答えするコールバック方式をとらせていただきます。

▶ HCA センタ（HITAC カスタマ・アンサ・センタ）

 0120-2580-91

受付時間

9:00 ~ 12:00 / 13:00 ~ 17:00（土・日・祝日、年末年始、夏季休暇など弊社指定休日を除く）

▶ お願い

- お問い合わせになる際に次の内容をメモし、お伝えください。お問い合わせ内容の確認をスムーズに行うため、ご協力をお願いいたします。

形名 (TYPE) / 製造番号 (S/N) / インストール OS

「形名」および「製造番号」は、システム装置前面に貼り付けられている機器ラベルにてご確認ください。

- 質問内容を FAX でお送りいただくこともありますので、ご協力をお願いいたします。
- HITAC カスタマ・アンサ・センタでお答えできるのは、本製品のハードウェアの機能や操作方法などです。ハードウェアに関する技術支援や、OS や各言語によるユーザープログラムの技術支援は除きます。ハードウェアや OS の技術的なお問い合わせについては有償サポートサービスにて承ります。
→ 「付録 B.2 技術支援サービスについて」 P.57
- 明らかにハードウェア障害と思われる場合は、販売会社または保守会社にご連絡ください。

付録 A.3 ハードウェア障害について

システム装置の深刻なエラーが発生したときは、お買い求め先の販売会社または、ご契約の保守会社にご連絡ください。ご連絡先をご購入時にお控えになった連絡先をご参照ください。なお、日立コールセンタでもハードウェア障害に関するお問い合わせを承っております。

またご連絡いただくときは、『ユーザーズガイド ～運用編～』「付録 C エラーが発生したときは」をご参照ください。トラブルの早期解決に役立ちます。

付録 A.4 欠品・初期不良・故障について

本製品の納入時の欠品や初期不良および修理に関するお問い合わせは日立コールセンタにご連絡ください。

▶ 日立コールセンタ



0120-921-789

受付時間

9:00～18:00（土・日・祝日、年末年始、夏季休暇など弊社指定休日を除く）

▶ お問い合わせ

- お電話の際には、製品同梱の保証書をご用意ください。
- Web によるお問い合わせは次へお願いします。

https://e-biz.hitachi.co.jp/cgi-shell/qa/rep_form.pl?TXT_MACTYPE=1

付録 A.5 技術的なお問い合わせ先について

本製品のハードウェア、OS、ソフトウェアに関する次の技術的なお問い合わせには、有償サポートサービス「日立サポート 360」のご契約が必要です。

- インストール、セットアップなどの操作手順や設定方法
- 本製品で発生した障害の原因切り分けおよび対策、回避策について有償サポートサービスご契約時に送付される、サービス利用ガイドをご参照いただき、日立ソリューションサポートセンタにお問い合わせください。

▶ 日立ソリューションサポートセンタ



フリーダイヤル：ご契約時に送付されるサービス利用ガイドをご参照ください。

受付時間： ご契約の内容にしたがいます。

有償サポートサービスの詳細は「付録 B.2 技術支援サービスについて」P.57 をご参照ください。

なお、ハードウェア障害の修理はハードウェア保守サービスで対応します。詳細は「付録 B.1 ハードウェア保守サービスについて」P.55 をご参照ください。

付録 B サポート & サービスのご案内

システム装置を最良の状態でお使いいただくためのサポートサービスについて説明します。

付録 B.1 ハードウェア保守サービスについて

□ 無償保証について

システム装置をご購入いただいた日から3年間は、無償保守を行います。

保証書は紛失しないよう、大切に保管してください。

無償修理期間	ご購入日より3年間 *1
サービス内容 *2	「出張修理サービス（翌平日オンサイト）」 障害ご連絡後の翌平日以降にサービス員が出張による修復（無償）
サービス時間 *2	平日 9:00～17:00（土・日・祝日、年末年始を除く）
対象製品	HA8000/RS440 システム装置および内蔵オプション *3 （OS およびソフトウェア製品は対象外）

*1 使用期間により寿命となる有寿命部品は交換をお勧めします。

*2 交通事情・天候や地理条件（島嶼や山間部、遠隔地）などにより、上記日時は変更となる場合があります。

*3 HA8000 専用外付けオプションに関しては、無償修理期間はご購入日より1年間となります。ただし、ディスプレイ装置など個々に保証書が添付されている弊社標準オプションについては、その保証書に記載されている保証期間が適用されます。HA8000 専用内蔵オプションに関しては、当該オプションが内蔵されているシステム装置本体の無償修理期間が適用されます。

無償修理期間後の保守サービスや、無償修理期間中でも「維持保守サービス（当日オンサイト）」など別の保守サービスをお受けになる際は、お買い求め先または保守会社にご相談ください。

なお、「おまかせ安心モデル」、「おまかせ安心ロングライフモデル」、「ロングライフサポートモデル」や「預けて安心ロングライフモデル」をご購入いただいた場合は、サービス内容がアップグレードされます。

「おまかせ安心モデル」および「おまかせ安心ロングライフモデル」の詳細については、システム装置に添付される『おまかせ安心サポート & サービスのご案内』をご参照ください。

「ロングライフサポートモデル」の詳細については、「付録 C ロングライフサポートサービスについて」P.58をご参照ください。

「預けて安心ロングライフモデル」の詳細については、「付録 D 預けて安心ロングライフモデルについて」P.59をご参照ください。

□ 保守サービスの種類

■ 契約保守

あらかじめお客様とお買い求め先の間で「保守契約」を結び、本製品にトラブルが発生した場合に保守サービスを行います。

■ パーコール保守

何らかの事情で、上記の保守契約を結んでいないお客様からの修理依頼を受け、保守サービスを行います。

□ 保守サービス期間について

保守サービス期間は、本製品の納入時より5年間です。

□ 保守作業時の注意事項

システム装置の障害などによる保守作業において部品交換が発生した場合、交換した部品や BIOS、ファームウェアは基本的に最新のバージョンが適用されます。また、必要に応じて交換していない部品の BIOS、ファームウェアも最新のバージョンに更新することがあります。保守作業前と異なる場合があることをあらかじめご了承ください。

□ 製品保証について

■ 保証規定

保証規定は保証書の裏面に記載されておりますので、よくお読みください。

■ 保証期間

保証期間は保証書に記載されておりますのでご参照ください。

■ 有寿命部品の扱いについて

システム装置には、使用しているうちに劣化・消耗する有寿命部品があります。

寿命に達した有寿命部品はシステム装置の故障やデータの消失などの原因となりますので、早期に交換することをお勧めします。詳細は『ユーザーズガイド ～運用編～』「付録 A お手入れと交換品」をご参照ください。

付録 B.2 技術支援サービスについて

ハードウェアや OS、ソフトウェアの技術的なお問い合わせについては、「技術支援サービス」による有償サポートとなります。

▶ 総合サポートサービス「日立サポート 360」

ハードウェアと Windows や Linux など OS を一体化したサポートサービスをご提供いたします。詳細は次の URL で紹介しています。

- ホームページアドレス <http://www.hitachi.co.jp/soft/symphony/>

インストールや運用時のお問い合わせや問題解決など、システムの円滑な運用のためにサービスのご契約をお勧めします。

▶ HA8000 問題切分支援・情報提供サービス

ハードウェアとソフトウェアの問題切り分け支援により、システム管理者の負担を軽減します。詳細は次の URL で紹介しています。

- ホームページアドレス <http://www.hitachi.co.jp/soft/HA8000/>

運用時の問題解決をスムーズに行うためにサービスのご契約をお勧めします。

なお、本サービスには OS の技術支援サービスは含まれません。OS の技術支援サービスを必要とされる場合は「日立サポート 360」のご契約をお勧めします。

付録 C ロングライフサポートサービスについて

ここでは、ロングライフサポートモデルに提供される「ロングライフサポートサービス」について説明します。

付録 C.1 ロングライフサポートサービスの概要

システム装置の動作環境を適切に維持することで、長期間の安定稼働を保証するサービスです。これにより、保守サービス期間を最長 7 年まで延長することが可能になります。

本サービスはシステム装置ご購入時にご契約いただく必要があります。

また、同時にハードウェア保守サービスを長期（6 年または 7 年）でご契約いただくことが前提となります。4 年目以降の保守サービスは、別途、保守会社とハードウェア保守サービスの締結が必要です。

なお、ロングライフサポートモデルの「無償保守期間のサービス内容」と「保守サービス期間」は、「付録 B サポート & サービスのご案内」P.55 に記載されている内容と異なります。それぞれ、システム装置に添付される「保証書」と、ロングライフサポートサービス契約時に提示される「サービス仕様書」の内容をご確認ください。



ロングライフサポートモデルの設置環境条件と有寿命部品は、その他のモデルと異なります。『ユーザーズガイド ~導入編~』（本書）および『ユーザーズガイド ~運用編~』に記載の内容をご確認ください。

付録 C.2 対象モデル

ロングライフサポートサービスの対象モデルは、システム装置に貼られているラベルの形名（TYPE）記載や、ご購入時にご指定いただいたセット形名で見分けることができます。

→ 「1.1.2 システム装置のモデルについて」P.2

付録 C.3 セルフチェックシートについて

ロングライフサポートモデルを使用する前に、『HA8000 シリーズ ロングライフサポートモデル 導入前 セルフチェックシート』に記載の内容を再度ご確認ください。

また、設置場所の変更など周囲環境が変わる場合には、添付のセルフチェックシートにて再度、指定の条件を満たしていることをご確認ください。

付録 D 預けて安心ロングライフモデルについて

ここでは、預けて安心ロングライフモデルについて説明します。

付録 D.1 預けて安心ロングライフモデルの概要

「預けて安心サービス」をご契約いただき、システム装置を日立のデータセンタに設置していただくことにより、システム装置の動作環境を適切に維持し、長期間の安定稼動を保証するモデルです。これにより、保守サービス期間を最長7年まで延長することが可能になります。

「ロングライフサポートモデル」は動作環境や設置条件などを定期的に点検する必要がありますが、「預けて安心ロングライフモデル」はシステム装置を日立のデータセンタに設置するため、定期的な環境点検は不要となります。

なお、「預けて安心ロングライフモデル」の保守サービス期間は、ほかのシステム装置と異なります。「預けて安心ロングライフモデル」に添付される「保証書」の内容をご確認ください。



預けて安心ロングライフモデルの設置環境条件と有寿命部品は、その他のモデルと異なります。『ユーザーズガイド ~導入編~』(本書)および『ユーザーズガイド ~運用編~』に記載の内容をご確認ください。

付録 D.2 対象モデル

預けて安心ロングライフモデルは、システム装置に貼られているラベルの形名 (TYPE) 記載や、ご購入時にご指定いただいたセット形名で見分けることができます。

→ 「1.1.2 システム装置のモデルについて」 P.2

索引

■ A

ACCESS ランプ 19
Adobe Reader xxiii

■ C

CSS ランプ 21

■ D

DVD-ROM
イジェクトボタン 24
入れる 25
手動イジェクト穴 24
種類 27
取り扱い 28
取り出す 26
トレイカバー 24
ピジーインジケータ 24

■ F

FAN ERROR ランプ 17, 21

■ H

HDD キャニスタランプ 16
Hitachi RAID Navigator 10
Hitachi Server Navigator 9

■ I

IT Report Utility 10

■ J

JP1/ServerConductor 9

■ L

LAN STATUS ランプ 15
LAN ケーブル
接続 39
Log Monitor 10

■ M

MegaRAID Storage Manager 10

■ N

NMI スイッチ 17

■ P

POST コードランプ 21
POWER スイッチ 17
POWER ランプ 17

■ R

RESET スイッチ 17

■ S

SYSTEM ID スイッチ 19, 22
SYSTEM ID ランプ 19, 22
SYSTEM STATUS/FAULT ランプ 18, 21

■ U

UPS
接続 37
USB コネクタ 16, 21

■ あ

安全にお使いいただくために
一般的な安全上の注意事項 xi
装置の損害を防ぐための注意 xiii
本マニュアル内の警告表示 xv
安全に関する注意事項 x

■ い

入れる
DVD-ROM 25

■ お

お問い合わせ先

HCA センタ (HITAC カスタマ・アンサ・センタ) 53

技術的なお問い合わせ 54

欠品 54

故障 54

初期不良 54

操作や使いこなし 53

日立コールセンタ 54

日立ソリューションサポートセンタ 54

■ か

拡張ストレージベイ (2.5 型) 16

拡張ストレージベイ (5 型) 15

拡張ストレージベイ (5 型 薄型) 15

拡張スロット (PCI) 19

■ き

キーボード

接続 34

技術支援サービス 57

規制・対策

高調波電流規格：JIS C 61000-3-2 適合品 iii

雑音耐力 iv

電源の瞬時電圧低下対策 iii

電波障害自主規制 iii

輸出規制 iv

■ け

警告ラベル xvii

ケーブル結束バンド 22

欠品 54

■ こ

コンセント 7

■ し

システム装置

使用環境 5

信頼性 iii

制限事項 5

接続 33

設置環境 4

取り扱い 5

システム装置の設置 32

システム情報採取ツール 10

周辺機器

使用環境 5

取り扱い 5

重要なお知らせ iii

種類

DVD-ROM 27

使用環境

システム装置 5

周辺機器 5

商標 ii

初期不良 54

シリアルインタフェースコネクタ 22

■ せ

制限事項 5

製品保証

保証期間 56

保証規定 56

接続

LAN ケーブル 39

UPS 37

キーボード 34

ディスプレイ 34

電源コード 35

マウス 34

無停電電源装置 37

設置環境 4

■ そ

操作パネル 16

■ て

ディスプレイ

接続 34

ディスプレイインタフェースコネクタ 16, 22

電源

入れる 42

強制的に電源を切る 45

切る 44

電源コード

接続 35

電源コネクタ 22

電源ステータスランプ 22

電源スロット 22

電子マニュアル

使う前の準備 xxiii

開く／閉じる xxiii

■ と

取り扱い

DVD-ROM 28

システム装置 5

周辺機器 5

取り出す

DVD-ROM 26

■ ね

ネットワークインタフェースコネクタ 20

■ は

廃棄・譲渡時のデータ消去 v

著作権 ii

■ ふ

付属ソフトウェア

IT Report Utility 10

システム情報採取ツール 10

Hitachi RAID Navigator 10

Hitachi Server Navigator 9

JP1/ServerConductor 9

Log Monitor 10

MegaRAID Storage Manager 10

■ ほ

保守サービス

期間 56

契約保守 56

製品保証 56

注意事項 56

バーコード保守 56

無償保証 55

■ ま

マウス

接続 34

マニュアル

構成 xviii

マニュアルの表記

オペレーティングシステムの略称 vii

システム装置 vi

マネジメントボード 20

■ む

無停電電源装置

接続 37

日立アドバンスサーバ HA8000 シリーズ

ユーザーズガイド

～導入編～

HA8000/RS440 AL2

2012年11月～モデル

初版 2012年11月

第2版 2013年6月

無断転載を禁止します。

 株式会社 日立製作所
ITプラットフォーム事業本部

〒259-1392 神奈川県秦野市堀山下1番地

<http://www.hitachi.co.jp>

R44BL21100-2